

Power Systems

EMX0 PCIe Gen3 I/O 拡張ドロワーの取
り付け



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[v ページの『安全上の注意』](#)、[37 ページの『特記事項』](#)、「*IBM Systems Safety Notices*」(G229-9054)、および「*IBM Environmental Notices and User Guide*」(Z125-5823)に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。本体機器提供後に、追加で電源コード・セットが必要となった場合は、補修用の取扱いとなります。

本書は、Power10 プロセッサを搭載した IBM® Power® サーバー、およびすべての関連モデルに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：

GI11-9914-09
Power Systems
Installing an EMX0 PCIe Gen3 I/O
expansion drawer

発行：

日本アイ・ビー・エム株式会社

担当：

トランスレーション・サービス・センター

© Copyright International Business Machines Corporation 2021.

目次

安全上の注意.....	v
EMX0 PCIe Gen3 I/O 拡張ドロワーの取り付け.....	1
EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの取り付けまたはセットアップ.....	1
EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付けまたはセットアップするためのシステムの準備.....	1
EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付けるための部品の用意.....	4
ラック内の位置の決定およびマーク付け.....	4
取り付け用ハードウェアのラックへの取り付け.....	8
ラックへの EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの取り付け.....	11
システムへの EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの接続.....	18
EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを接続するためのシステムの準備.....	18
拡張ドロワー・ケーブル・ペアの配線、接続、および活動化.....	19
システムへの EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの接続後に操作を行うためのシステムの準備.....	27
コネクタ位置.....	29
EMX0 PCIe3 拡張ドロワー のコネクタ位置.....	29
Power10 サーバーのコネクタ位置.....	30
9105-22A、9105-22B、および 9786-22H システムのコネクタ位置.....	30
9105-41B、9105-42A、9105-42B、および 9786-42H システムのコネクタ位置.....	31
9040-MRX および 9781-50H システムのコネクタ位置.....	32
9080-HEX システムのコネクタ位置.....	34
特記事項.....	37
IBM Power サーバーのアクセシビリティ機能.....	38
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項.....	39
商標.....	39
電波障害規制特記事項.....	39
クラス A 表示.....	40
クラス B 表示.....	43
使用条件.....	45

安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- **危険**の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **注意**の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **重要**の注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部分として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この文書には、英語原典に準拠した、各国語による安全上の注意が記載されています。この製品の取り付け、操作、または保守のために英語の資料をご使用になる場合は、まず、関連している安全上の注意についての文書をよくお読みください。また、英語版資料の安全上の注意が明確に理解できない場合も、必ずこの文書を参照してください。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

レーザーに関する安全上の注意

IBM サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはフィーチャーを使用することができます。

レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。



危険: システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を避けるため、IBM から電源コードが供給されている場合は、その電源コードのみを使用して当装置を電源に接続します。IBM から供給された電源コードは、他の製品には使用しないでください。電源装置アSEMBリーを開いたり、保守しないでください。雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。



- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。AC 電源では、すべての電源コードをそれぞれの AC 給電部から切り離します。DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP へのお客様の DC 電源を切断してください。
- 製品に電源を接続する際には、すべての電源ケーブルが適切に接続されていることを確認します。AC 電源付きのラックでは、すべての電源コードを正しく配線され接地されたコンセントに接続します。電源コンセントから供給される電圧と相回転がシステムの定格銘板に従っていることを確認します。DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源を PDP へ接続します。DC 電源および DC 電源帰線を接続する際に、必ず、適切な極性が使用されていることを確認してください。
- ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。

- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 考えられる危険な状態がすべて修正されるまで、マシンへの電力をオンに切り替えようとしないでください。
- マシンの検査を実行する際は、電気に関する安全上の問題が存在することを前提としてください。サブシステムの取り付け手順時に指定された導通、接地、および電源のチェックをすべて実行して、そのマシンが安全要件を満たしていることを確認してください。考えられる危険な状態がすべて修正されるまで、マシンへの電力をオンに切り替えようとしないでください。装置のカバーを開ける前に、取り付けおよび構成の手順で別途指示されている場合を除き、接続されている AC 電源コードを切り離し、ラック電力配分パネル (PDP) 内の該当する回路ブレーカーの電源をオフにして、すべての通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離します。
- ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、以下の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

電源を切るには、1) すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。2) AC 電源では、コンセントから電源コードを取り外します。3) DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオフにして、お客様の DC 電源から電力を除去します。4) シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。5) すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

接続するには、1) すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。2) すべてのケーブルをデバイスに接続します。3) シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。4) AC 電源では、電源コードをコンセントに接続します。5) DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源からの電力を回復し、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオンにします。6) デバイスの電源をオンにします。



- 鋭利な先端の部品やジョイントがシステムの中や周囲に存在している可能性があります。機器を取り扱う際には、指を切ったり、こすったり、挟んだりしないように注意してください。(D005)

(R001 パート 2 の 1):



危険: IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げておきます。
- 地震オプションを取り付ける場合を除き、ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください (提供されている場合)。
- 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。また、ラックに取り付けられた装置に寄りかかったり、身体を安定させるため (はしごから作業を行うときなど) にそれらの装置を使用したりしないでください。



- 安定度の危険:
 - ラックがひっくり返って、重傷を引き起こす可能性があります。
 - ラックを取り付け位置に広げる前に、設置手順を読んでください。
 - 取り付け位置にマウントされているスライド・レールが装着済みの装置に負荷をかけないでください。
 - スライド・レールが装着済みの装置を取り付け位置に入れたままにしないでください。
- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付属していることがあります。

- AC 電源付きのラックでは、保守作業中に電源を切り離す指示がある場合は、ラック・キャビネット内のすべての電源コードを必ず取り外してください。
- DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、保守作業中に電源を切断するよう指示された場合、システム装置 (単数または複数) への電力を制御する回路ブレーカーをオフにするか、またはお客様の DC 電源を切断してください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。(R001 パート 2 の 1)

(R001 パート 2 の 2):



注意:

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れるために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合や、ラックが床にボルトで留められていない場合、ドロワーやフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。



- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。(R001 パート 2 の 2)



注意: ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。

- 32U 位置 (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001) 以上にあるすべてのデバイスを取り外します。
- 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
- ラック・キャビネット内で 32U (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001) のレベルより下に取り付けられたデバイス間に空の U レベルがほとんどないことを確認します。
- 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- 再配置するラック・キャビネットに取り外し可能なアウトリガーが取り付けられている場合は、アウトリガーを再配置してから、キャビネットを再配置する必要があります。
- 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- すべてのドアの開口部が少なくとも 760 x 2083 mm (30 x 82 インチ) 以上であることを確認します。
- すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- 4 つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- 傾斜が 10 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、以下の手順を実行します。
 - 4 つのレベル・パッドを下げます。
 - ラック・キャビネット上にスタビライザー・ブラケットを取り付けるか、地震環境ではラックを床にボルトで留めます。
 - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきます。
- 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。また、レベル・パッドを下げ、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

(L001)



危険: このラベルが貼られているコンポーネントの内部には、危険な電圧、強い電流が流れています。このラベルが付いているカバーまたはバリアは開けないでください。(L001)

(L002)



危険：ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。また、ラックに取り付けられた装置に寄り掛かったり、(はしごに乗って作業している場合などに) 体の位置を安定させるためにそれらの装置を使用したりしないでください。安定度の危険:

- ・ラックがひっくり返って、重傷を引き起こす可能性があります。
- ・ラックを取り付け位置に広げる前に、設置手順を読んでください。
- ・取り付け位置にマウントされているスライド・レールが装着済みの装置に負荷をかけないでください。
- ・スライド・レールが装着済みの装置を取り付け位置に入れたままにしないでください。

(L002)

(L003)



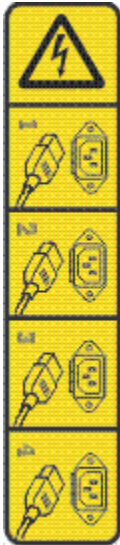
または



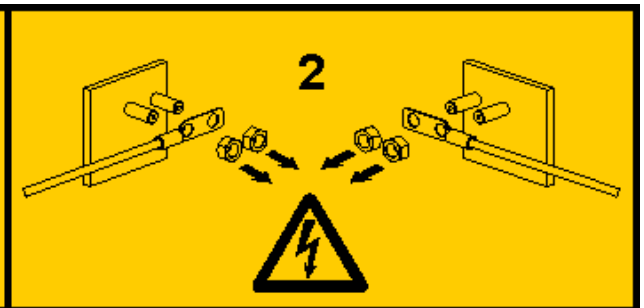
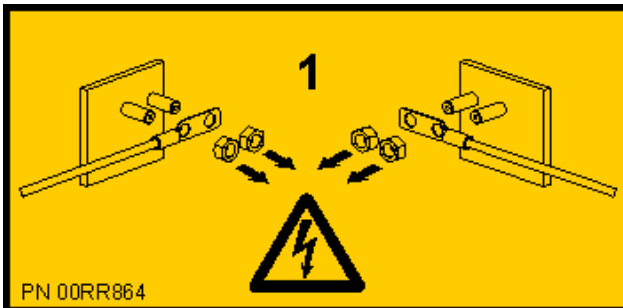
または



または



または



危険: 複数の電源コード。この製品は複数の AC 電源コードや複数の DC 電源ケーブルを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するために、すべての電源コードと電源ケーブルを切り離してください。(L003)

(L007)



注意: 近くに高温になる部品が存在します。(L007)

(L008)



注意: 近くに危険な可動部品があります。(L008)

(L018)



または



注意: 高レベルの音響ノイズが存在します (特定の状況下では存在する可能性があります)。承認を受けた聴覚保護を使用するか、もしくは緩和を実現するか露出を制限する (あるいはその両方) を行ってください。(L018)

すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。米国以外の国では、レーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。レーザー認証番号および承認情報については、各部品のラベルをご覧ください。



注意: この製品には、クラス 1 のレーザー製品である CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブ、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)



注意: データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。光ファイバーの導通を確認するために、切断された光ファイバーの一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んで目にも損傷を与えない可能性はありますが、このやり方は潜在的に危険です。そのため、一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んで光ファイバーの導通を確認することはお勧めしません。光ファイバー・ケーブルの導通を検査するには、光学式光源および電力メーターを使用してください。(C027)



注意: この製品には、クラス 1M のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。(C028)



注意: 一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の情報に注意してください。

- カバーを開くとレーザー光線の照射があります。
- 光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。

(C030)

(C030)



注意: このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- 水に投げ込む、あるいは浸す
- 100°C を超えて加熱
- 修理または分解

IBM 承認の承認済みの部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。米国では、IBM がこのバッテリーの回収プロセスを設けています。詳しくは、1-800-426-4333 にお問い合わせください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの IBM 部品番号をご用意ください。(C003)(C003a)



注意: IBM 提供の提供のベンダー・リフト・ツールに関する注意:

- リフト・ツールの作業は、許可された担当者のみが行ってください。
- リフト・ツールは、ラックの高い位置での装置 (荷物) の補助、引き上げ、取り付け、取り外しに使用するものです。これは、装置を装着して大きなスロープを移送するために使用したり、パレット・ジャック、ウォーカー、フォーク・トラックなどの指定ツールや関連の再配置実施の代替として使用したりするためのものではありません。このような作業を実行できない場合は、特別な訓練を受けた担当員またはサービスを使用する必要があります (例えば、整備業者や運送業者など)。
- リフト・ツールを使用する前に、作業用者の資料を読んで完全に理解してください。よく読んで理解し、安全の規則に従い、手順に従って作業しないと、資産が損傷したり、作業者が負傷したりする可能性があります。質問がある場合は、ベンダーのサービスおよびサポートにお問い合わせください。ご使用の地域用の紙の資料は、マシンの近くの保管場所に保存しておく必要があります。最新リビジョンの資料は、ベンダーの Web サイトから入手可能です。
- 使用前には、毎回スタビライザーのブレーキ機能をテストして確認してください。スタビライザーのブレーキを固定した状態で、過剰な力でリフト・ツールを動かしたり回転させたりしてはなりません。
- スタビライザー (ブレーキ・ペダル・ジャック) が完全に固定されていない限り、プラットフォーム積載棚を上下左右に動かしてはなりません。使用も移動もしていない場合は、スタビライザーのブレーキを固定したままにしてください。
- わずかな位置決めを除き、プラットフォームが上がっている状態でリフト・ツールを移動させてはなりません。
- 定められた積載能力を超えてはなりません。引き伸ばされたプラットフォームの中央と端における最大積載量については、積載能力チャートを参照してください。
- 積載量が増加するのは、プラットフォームの中央に適切に配置されている場合のみです。スライドさせたプラットフォームの棚の端には、91 kg を超える装置を置いてはなりません。また、装置の重心も考慮する必要があります。
- プラットフォーム、傾斜ライザー、角度のあるユニット設置ウェッジ、その他の付属品オプションの隅に荷重をかけないでください。そのようなプラットフォーム (ライザー傾斜、ウェッジなどのオプション) は、使用する前に、提供されたハードウェアのみを使用して 4 つの位置すべて (4x またはその他のプロビジョン取り付け) にあるメイン・リフト棚または分岐点に固定します。積載オブジェクトは、大きな力を加えなくてもプラットフォーム上で簡単にスライドするように設計されているため、押したり寄り掛かったりしないように注意してください。ライザー傾斜 (調整可能な角度プラットフォーム) オプションは、最終的な微調整 (必要な場合) を除き、常に平らな状態を維持してください。
- 突き出した積載の下には立たないでください。
- 表面に段差がある場所や傾斜 (大きなスロープ) では使用しないでください。
- 装置を積み重ねないでください。
- 薬物やアルコールの影響がある状態で操作を行ってはなりません。
- リフト・ツールに対して踏み台で支えてはなりません (このツールを使用した高さでの作業に対して認定された手順に従うものに特定のあそびが設けられている場合を除く)。
- 倒れる危険があります。プラットフォームが上がった状態で装置を押したり寄り掛かったりしてはなりません。

- 人を持ち上げるためのプラットフォームや階段として使用してはなりません。人を乗せるためのものではありません。
- リフトのどの部分にも立ってはなりません。階段ではありません。
- マストに登ってはなりません。
- 損傷あるいは誤動作しているリフト・ツール・マシンを操作してはなりません。
- プラットフォームの下には、押し潰されたり挟まれたりする危険な場所があります。装置を下ろす場合は、必ず人や障害物がない場所で行ってください。作業中は、手足に十分に注意してください。
- フォークではありません。パレット・トラック、ジャック、あるいはフォーク・リフトを使用して、むき出しのリフト・ツール・マシンを持ち上げたり移動したりしてはなりません。
- マストはプラットフォームより高い位置まで伸びます。天井の高さ、ケーブル・トレイ、スプリンクラー、電灯、およびその他の頭上にある物に注意してください。
- 装置を上げた状態でリフト・ツール・マシンから離れないでください。
- 装置が動作しているときは、手、指、衣類に十分に注意してください。
- ウィンチは、手の力のみで回転させてください。ウィンチ・ハンドルを片手で回すのが困難である場合は、荷重が大きすぎる可能性が高いです。プラットフォーム・トラベルの最上部または最下部を超えてウィンチを回さないでください。過度に巻き戻すと、ハンドルが外れてケーブルが損傷します。下げたり巻き戻したりする場合は、常にハンドルを保持してください。ウィンチ・ハンドルを離す前に、ウィンチが装置を保持していることを必ず確認してください。
- ウィンチの事故は、重傷の原因となる可能性があります。人を動かすためのものではありません。装置を引き上げる際には、クリック音が聞こえることを確認してください。ハンドルを離す前に、ウィンチが所定の位置にロックされていることを確認してください。このウィンチで作業する前に、手順を示すページをお読みください。絶対にウィンチが勝手に巻き戻ることがないようにしてください。ウィンチが勝手に回転すると、ケーブルが不規則にウィンチ・ドラムの周囲に巻かれたり、ケーブルが損傷したり、重傷の原因となる可能性があります。
- このツールは、IBM サービス担当員が使用するために、適切に維持する必要があります。IBM は、操作の前に状態を検査し、保守履歴を確認します。担当者は、不足がある場合に、このツールを使用しない権利を有します。(C048)

NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェースは、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するように設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。

DC 電源システムは、GR-1089-CORE に記載されているとおり、Common Bonding Network (CBN (共通ボンディング・ネットワーク)) に設置されることを意図したものです。

EMX0 PCIe Gen3 I/O 拡張ドロワーの取り付け

EMX0 PCIe Gen3 I/O 拡張ドロワー (EMX0 PCIe3 拡張ドロワー) をラックに取り付ける、または事前設置済み EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを配送用ブラケットから取り外す方法について説明します。次に、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーをシステムに接続して PCIe リンクを活動化する方法について説明します。

注:

- POWER9™ プロセッサ・ベースの 9080-HEX システムがあり、そのシステムを EMX0 PCIe3 拡張ドロワーと同時に設置する場合は、サービス・プロバイダーが EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの取り付けを行います。既に設置済みの 9080-HEX システムがあり、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを注文した場合は、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの取り付けおよびセットアップはお客様が行う作業です。この作業は、お客様自身で行うことも、有償でサービス・プロバイダーに依頼することもできます。
- POWER8® プロセッサ・ベースの 9080-MHE、9080-MME、9119-MHE、または 9119-MME システムがあり、そのシステムを EMX0 PCIe3 拡張ドロワーと同時に設置する場合は、サービス・プロバイダーが EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの取り付けを行います。9080-MHE、9080-MME、9119-MHE、または 9119-MME の各システムが既に取り付けられており、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーをオーダーしてある場合、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの取り付けおよびセットアップはお客様が行う作業です。この作業は、お客様自身で行うこともできますが、有償でサービス・プロバイダーに依頼することもできます。
- 別のタイプのシステムがある場合、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの設置とセットアップは、お客様が行う作業です。この作業は、お客様自身で行うこともできますが、有償でサービス・プロバイダーに依頼することもできます。

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの取り付けまたはセットアップ

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーをラックに取り付けるか、または事前設置済み EMX0 PCIe3 拡張ドロワーをセットアップする方法について説明します。

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付けまたはセットアップするためには、以下のタスクを実行してください。

1. [EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付けまたはセットアップする準備](#)
2. EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの在庫の記入
3. [ラック内の位置の決定およびマーク付け](#)
4. [取り付け用ハードウェアのラックへの取り付け](#)
5. [ラックへの EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの取り付け](#)

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付けまたはセットアップするためのシステムの準備

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付けるための前提条件について説明します。

このタスクについて

重要: 既存の EMX0 PCIe3 拡張ドロワーのケーブル構成を変更すると、既存の拡張ドロワーに割り当てられたバス番号が変更されるなど、予期せずに入出力構成が変更されることがあります。バス番号が変更されると、区画プロファイルは既存の入出力リソースを検出できなくなります。

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付けるためにシステムを準備するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 必要な数の PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュールが EMX0 PCIe3 拡張ドロワーに取り付けられていることを確認します。
詳しくは、以下の手順を参照してください。

- システムが HMC によって管理されている場合は、[PCIe アダプター](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10haj/hmcinstall.htm) (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10haj/hmcinstall.htm>) を参照してください。
 - システムが HMC によって管理されていない場合は、[EMX0 PCIe Gen3 I/O 拡張ドロワーでの PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュールの取り付け](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10egv/p10egv_emx0_kickoff_install.htm) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10egv/p10egv_emx0_kickoff_install.htm) を参照してください。
2. ドロワーをサポートするために必要なソフトウェアのレベルを判別します。
手順については、[Power Systems Prerequisites Web サイト](https://www14.software.ibm.com/support/customer/ibm.com/iprt/home) (<https://www14.software.ibm.com/support/customer/ibm.com/iprt/home>) を参照してください。
 3. 以下のオプションから選択してください。
 - EMX0 PCIe3 拡張ドロワーがラックに事前設置された状態で設置場所に届いた場合は、[ステップ 2 ページの『4』](#)に進みます。
 - EMX0 PCIe3 拡張ドロワーをラックに設置する必要がある場合は、[ステップ 3 ページの『5』](#)に進みます。
 4. EMX0 PCIe3 拡張ドロワーがラックに事前設置された状態で設置場所に届いた場合は、以下のステップを実行します。
 - a) 以下の品目が揃っていることを確認してから、事前設置済みシステムでの作業を開始します。
 - #1 および #2 のプラス・ドライバー
 - マイナス・ドライバー
 - b) 以下のステップを実行することにより、配送用ブラケットを取り外します。
 - i) 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップを着用していること、および ESD クリップのプラグが接地されているジャックに差し込まれているか、またはクリップが塗装されていない金属面に接続されていることを確認します。そうでない場合は、ここで行ってください。
 - ii) #1 プラス・ドライバーまたは 7/32 ソケットを使用して、配送用ブラケット **(A)** を EMX0 PCIe3 拡張ドロワーに固定している 2 つの M4 ねじ **(B)** を取り外します。

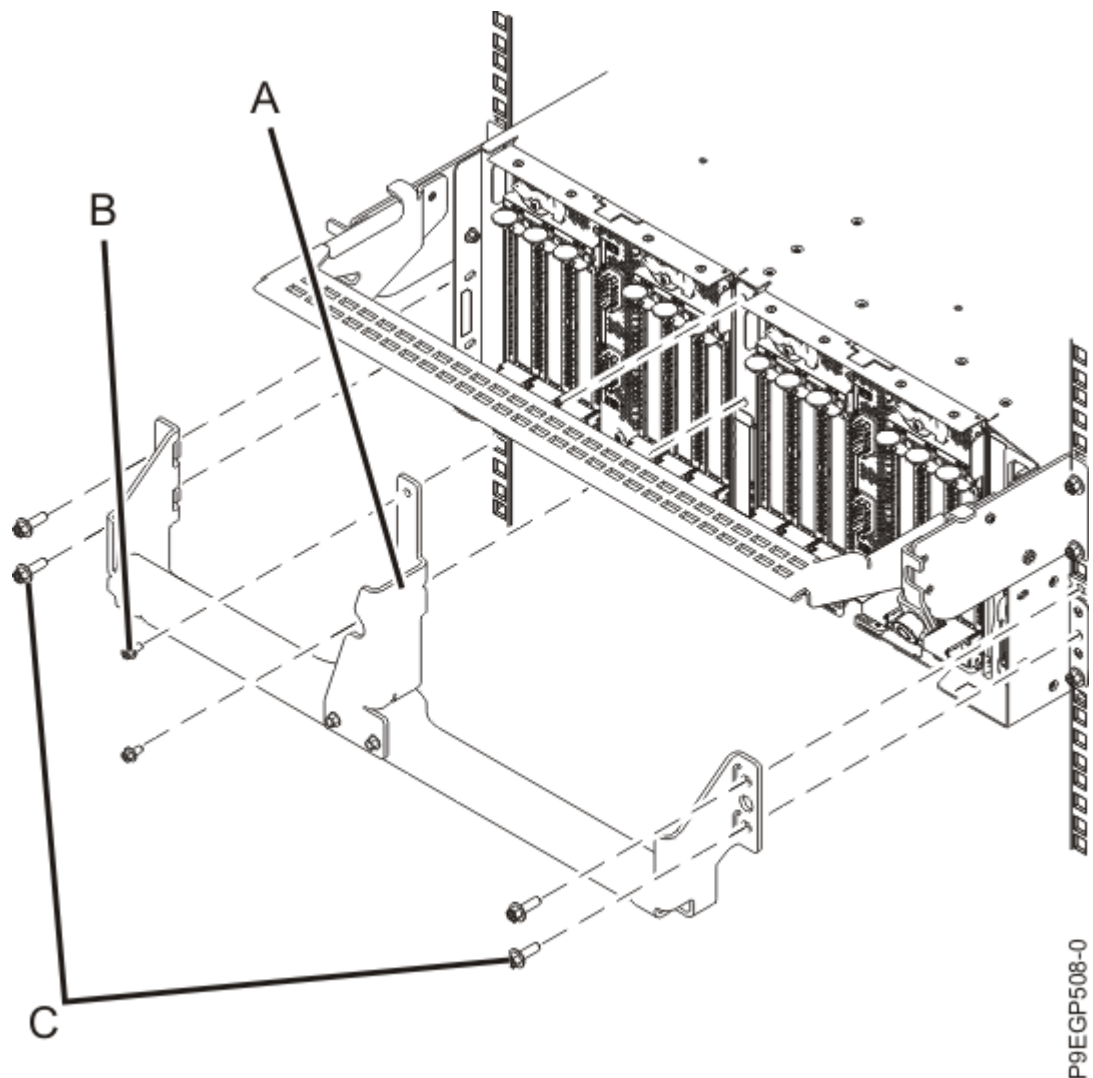


図 1. 配送用ブラケットの取り外し

- iii) #2 プラス・ドライバーまたは 7 mm ソケットを使用して、配送用ブラケット **(A)** をラック・フレームの左右のフランジに取り付けている 4 つの M5 ねじ **(C)** を取り外します。ブラケットをラック・フレームから取り外します。

ヒント：ブラケットは、再取り付けやドロワーの配送が将来必要になったときに備えて、保管しておいてください。

c) 18 ページの『システムへの EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの接続』から続行する。

5. EMX0 PCIe3 拡張ドロワーをラックに取り付ける必要がある場合は、以下のステップを実行します。

a) 設置を開始する前に、次の品目が揃っていることを確認してください。

- #1 および #2 のプラス・ドライバー
- マイナス・ドライバー
- 4 EIA (Electronic Industries Alliance) 単位の隣接するスペースがあるラック

注：ラックをまだ設置していない場合は、ラックを設置します。手順については、[ラックおよびラック・フィーチャー](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10hbf/p10hbf_10xx_kickoff.htm) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10hbf/p10hbf_10xx_kickoff.htm) を参照してください。

- EMX0 PCIe3 拡張ドロワー を持ち上げてラックに入れます。これには 3 人必要です。

b) 新しい EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付ける場所を判別します。

サイズ、セキュリティー、および環境ファクターを含むいくつかの要素を考慮してください。詳しくは、『[サイトの準備および設備計画](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10ebe/p10ebe_kickoff.htm)』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10ebe/p10ebe_kickoff.htm) を参照してください。

c) [4 ページの『EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付けるための部品の用意』](#) から続行する。

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付けるための部品の用意

EMX0 PCIe3 拡張ドロワー用の部品の用意について説明します。

手順

1. 在庫リストを参照し、注文した部品をすべて受け取ったことを確認します。少なくとも、各注文には以下の品目が入っています。

- 左右のラック・マウント・ハードウェア
- 取り付け用ねじ
- 電源ケーブル
- 長さが 2 メートル、3 メートル、10 メートル、または 20 メートルの拡張ドロワー・ケーブルのペア。

注:

- 2 メートルのケーブルは、ケーブル管理ブラケットを使用しているラック内の取り付けに使用します。
 - 3 メートルのケーブルは、ケーブル・マネジメント・アームを使用しているラック内の取り付けに使用します。
 - 10 メートルのケーブルは、ラック間の取り付けに使用します。
 - 20 メートルのケーブルは、Power10 プロセッサ・ベースの 9080-HEX システムまたは POWER8 プロセッサ・ベースの 9080-MHE、9080-MME、9119-MME、または 9119-MHE の各システムが搭載されているラック間の取り付けで必要になる場合があります。
2. 配送品の中に取り付け手順の実行に必要なでない部品が含まれている場合、それらの部品が将来必要になる場合に備えて、保管しておいてください。
 3. 部品の間違い、欠落、または損傷があった場合は、以下のいずれかに連絡してください。
 - お客様の IBM 販売店。
 - IBM Rochester Manufacturing Automated Information の電話番号は 1-800-300-8751 です (米国のみ)。
 - [Directory of worldwide contacts Web サイト](http://www.ibm.com/planetwide) (<http://www.ibm.com/planetwide>) を参照してください。地域を選択して、サービスおよびサポート窓口の情報を表示してください。
 4. 部品の間違い、欠落、または損傷があった場合は、次のレベルのサポートに相談してください。

ラック内の位置の決定およびマーク付け

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーをラックに取り付ける場所の決定方法について説明します。

このタスクについて

取り付けテンプレートを受け取った場合は、[ステップ 6 ページの『6』](#) から [ステップ 8 ページの『9』](#) で説明されている手動方式を使用する代わりに、テンプレートを使用して位置にマークを付けることができます。

手順

1. 『[ラックの安全上の注意](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10hbf/p10hbf_racksafety.htm)』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10hbf/p10hbf_racksafety.htm) をお読みください。
2. 他のシステム・ハードウェアとの関係を考えて、ドロワーをラックのどこに取り付けるかを決定します。ラックへのドロワーの取り付けを計画する際、以下の情報に留意してください。

重要:

- EMX0 PCIe3 拡張ドロワーは、可能であれば、システムの上側に配置します。
- EMX0 PCIe3 拡張ドロワーをシステムの下側に取り付ける必要がある場合、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーは、ケーブル管理ブラケットが正しく機能できるように、システムとの関係を考えて配置する必要があります。以下の要件を検討してください。
 - EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを Power10 プロセッサ・ベースの 9105-22A、9105-22B、9105-41B、9105-42A、9105-42B、9786-22H、または 9786-42H システムの下側に取り付ける場合、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーはシステムよりも少なくとも 2 EIA (米国電子工業会) 単位下に配置する必要があります。
 - EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを Power10 プロセッサ・ベースの 9040-MRX または 9781-50H システムの下側に取り付ける場合、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーはシステムより少なくとも 3 EIA 単位下に配置する必要があります。
 - EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを Power10 プロセッサ・ベースの 9080-HEX システムの下側に取り付ける場合、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーはシステムより少なくとも 1 EIA 単位下に配置する必要があります。
 - EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを POWER8 プロセッサ・ベースの 8247-21L、8247-22L、8247-42L、8284-22A、8286-41A、8286-42A、8408-44E、または 8408-E8E システムの下側に取り付ける場合、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーはシステムより少なくとも 2 EIA 単位下に配置する必要があります。

一般的な位置情報には、以下の推奨事項が含まれています。

- 大きくて重い装置をラック内の下の方の段に構成して設置します。
 - 最初に、ラックの下の方の段から装置を取り付けるように計画します。
 - 計画に EIA の位置を記録します。
3. 必要な場合は、前面と背面のラック・ドアを開くか取り外します。
 4. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップを取り付けます。

ESD リスト・ストラップは、保守手順が完了するまで、および該当する場合は保守アクセス・カバーが交換されるまで、塗装されていない金属面に接続しておく必要があります。



重要:

- 静電気の放電 (ESD) によるハードウェアの損傷を防ぐために、ESD リスト・ストラップを、ご使用のハードウェアの前面の ESD ジャック、背面 ESD ジャック、または塗装されていない金属面に接触させます。
 - ESD リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。ESD リスト・ストラップは静電気を制御するために使用するものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
 - ESD リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。この保守プロセスのどの時点でも、システムから離れた場合は、保守プロセスを続行する前に、塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒間触れることによって身体を再度放電することが重要です。
5. 必要な場合、エンクロージャーまたはドロワーを配置するラック・エンクロージャー内へアクセスできるよう、フィラー・パネルを取り外します。

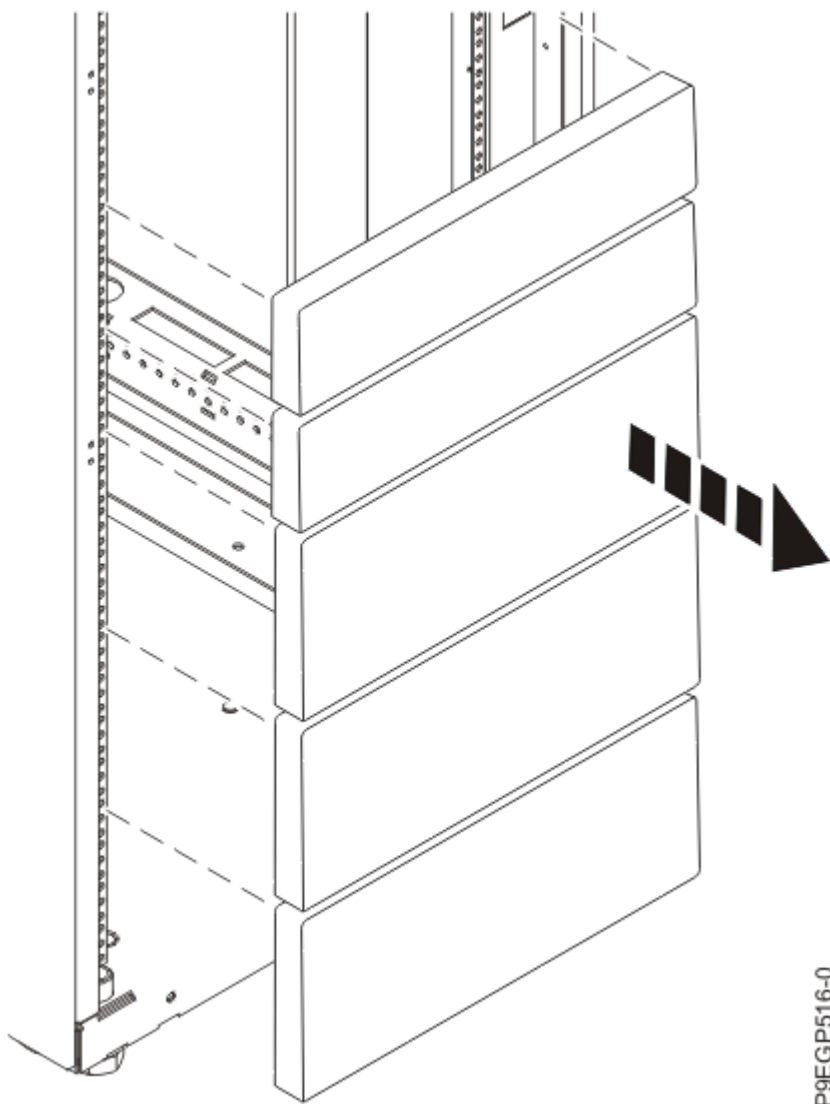


図 2. フィラー・パネルの取り外し

6. ラックの正面に向かって、左側から作業して、以下の手順を実行します。

注：取り付けテンプレートを受け取っている場合は、以下の手順を使用する代わりに、そのテンプレートを使用して取り付け位置にマークを付けることができます。

- ドロワーに使用する、一番下と一番上の EIA 単位を両方ともメモします。
- テープ、マーカー、または鉛筆を使用して、マークを付けた一番下の EIA 単位から 3 つ目の EIA 単位の最上部取り付け穴 **(A)** にマークを付けます。この位置にナット・クリップを挿入します。

注：これらのマークは、ラックの背面からも見えるように付けてください。

- 一番下の EIA 単位の最上部取り付け穴 **(B)** にマークを付けます。
- 穴を上にも 2 つ数えて、その取り付け穴 **(B)** の横にもう 1 つマークを付けます。これで、マークの間に取り付け穴を 1 つはさんで、ラック上に 2 つのマーク **(B)** が付けられたことになります。

前面

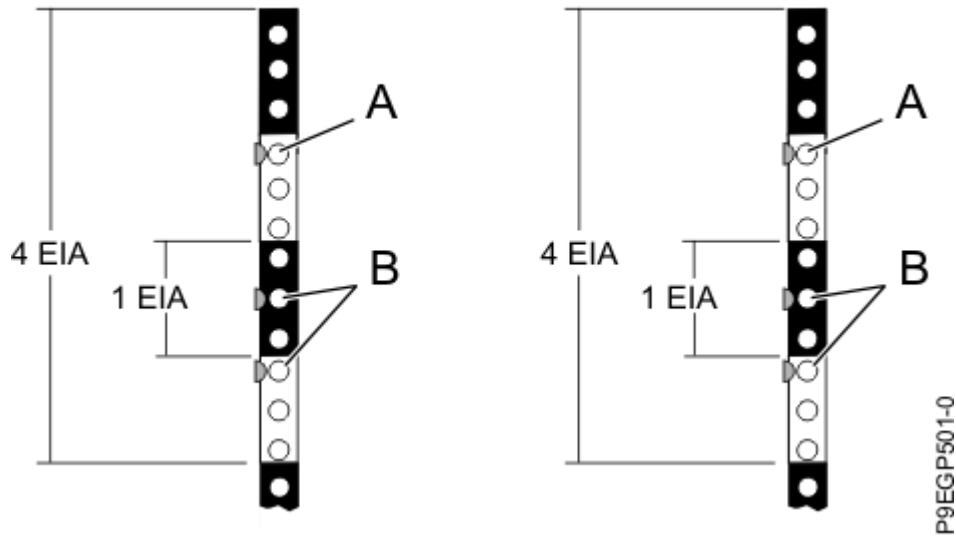


図 3. 前部取り付け位置のマーク付け

注: この手順では、**(A)** のマークにナット・クリップを取り付けます。その後、ラックに取り付け用ハードウェアを取り付ける手順で、**(B)** のマークにレール・ピンを取り付けます。

7. ステップ 6 ページの『6』を繰り返して、ラックの前部右側の対応する取り付け穴に 3 つのマークを付けます。**(A)** のマークの位置にナット・クリップを挿入します。
8. ラックの背面に回り、左側から作業して、以下の手順を実行します。
 - a) ラックの前面でマークを付けた最下部 EIA 単位に対応する EIA 単位を見つけます。
 - b) テープ、マーカー、または鉛筆を使用して、この EIA 単位の最上部の取り付け穴 **(C)** にマークを付けます。
 - c) 穴を上を 2 つ数えて、その取り付け穴 **(C)** の横にもう 1 つマークを付けます。これで、マークの間に取り付け穴を 1 つはさんで、ラック上に 2 つのマーク **(C)** が付けられたことになります。
 - d) 最後にマークを付けた場所から上を 3 つ取り付け穴を数え、その取り付け穴 **(D)** の横にもう 1 つマークを付けます。
 - e) 取り付け穴を上を 3 つ数え、その取り付け穴 **(D)** の横にもう 1 つマークを付けます。これで、ラック上に 2 つのマーク **(D)** が付けられたことになります。この 2 つの位置にナット・クリップを挿入します。

背面

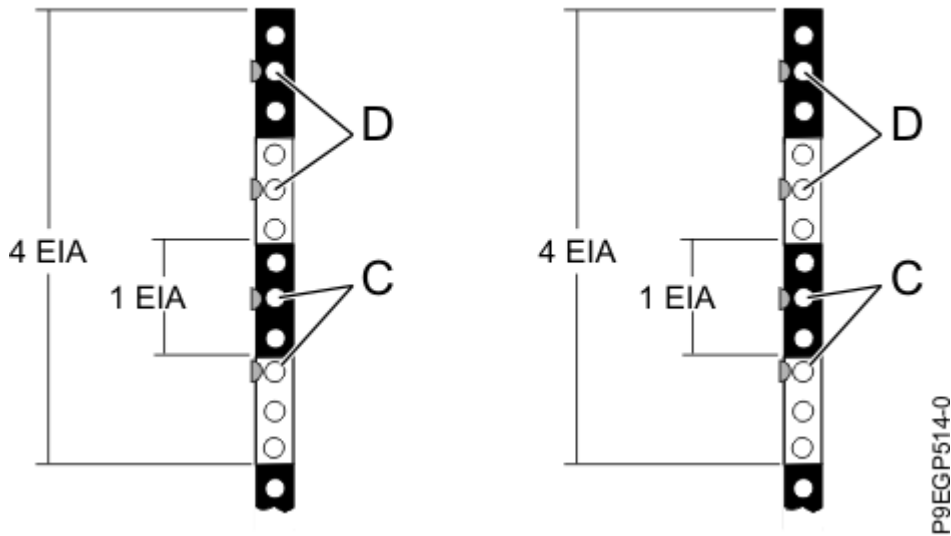


図 4. 後部取り付け位置のマーク付け

注: この手順では、**(D)** のマークにナット・クリップを取り付けます。その後、ラックに取り付け用ハードウェアを取り付ける手順で、**(C)** のマークにレール・ピンを取り付けます。

9. ステップ 7 ページの『8』を繰り返して、ラックの後部右側の対応する取り付け穴に 4 つのマークを付けます。**(D)** のマークの位置にナット・クリップを取り付けます。

取り付け用ハードウェアのラックへの取り付け

取り付け用ハードウェアをラックに取り付けてから、レールをラックに取り付ける方法について説明します。この情報は、安全で信頼できる操作を促進するために提供されており、関連するハードウェア・コンポーネントの図も記載され、それらのコンポーネント間の相互関係が示されています。

このタスクについて



重要: レールに不具合が生じたり、ご自身とシステム装置に危険が生じるのを避けるために、ご使用のラック用の適切なレールと取り付け具を使用していることを確認してください。ご使用のラックに支持フランジ用の四角い穴または支持フランジ用のねじ穴がある場合、レールと取り付け具が、ラックに使用されている支持フランジ用の穴に一致することを確認してください。一致しないハードウェアをワッシャーやスペーサーを使用して取り付けないでください。ご使用のラック用の適切なレールと取り付け具が揃っていない場合は、お客様の IBM 販売店にお問い合わせください。

重要: この手順を実行する際には、2 人でレール・アセンブリーをラックに取り付けることをお勧めします。その場合、ラックの前面側に 1 人、そしてラックの背面側に 1 人を配置します。

手順

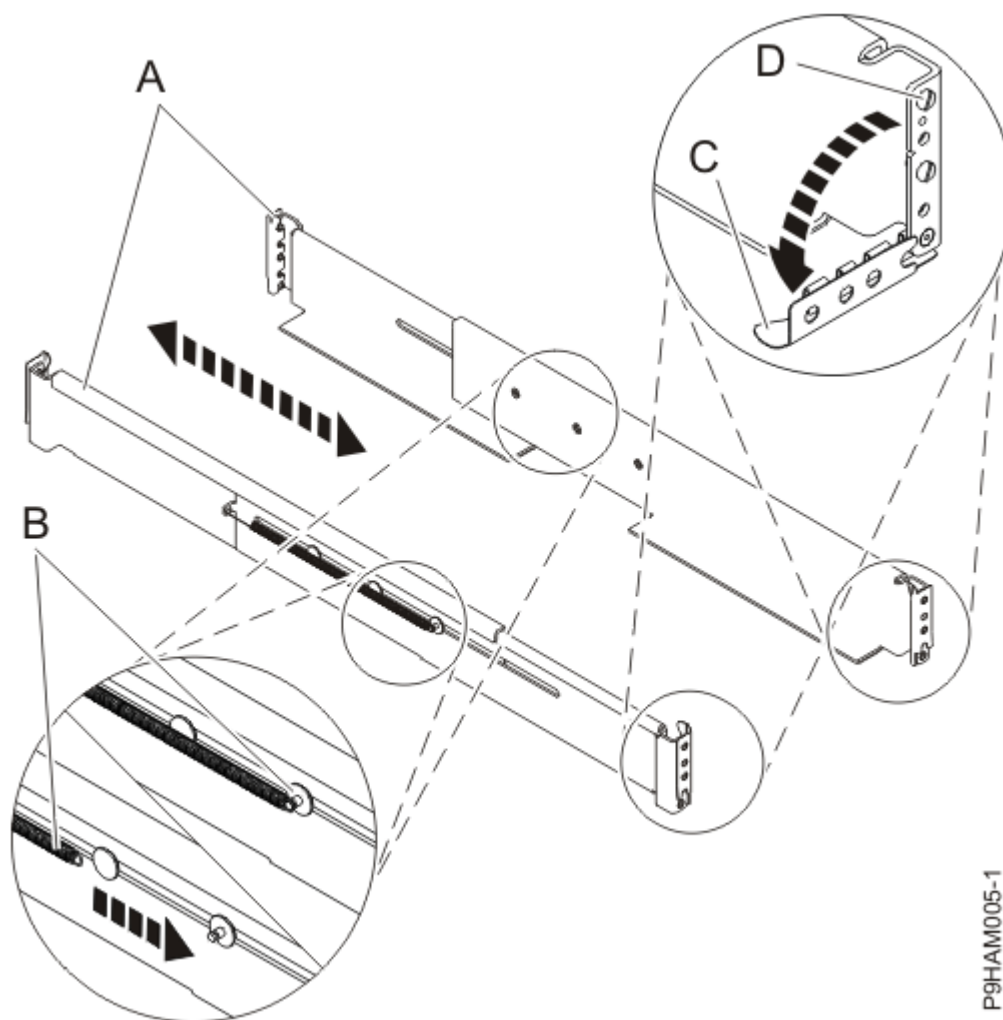
1. この手順で必要になるレール・キット部品をまとめておきます。

レール・キットには、以下の部品が含まれます。

注: EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付ける場合、レール・キットに含まれるすべての部品を使用する必要があります。

- M3 平ねじ (FC 5887 でのみ使用)
- L 形ブラケット (FC 5887 でのみ使用)
- 各種のラックに対応するための、大きな M5 溝付き丸頭ねじと M5 溝付き無頭ねじ
- 丸い穴があるラック用のナット・クリップ
- 四角い穴があるラック用のナット・クリップ

- 黒い M5 6 角ねじ
 - レール
2. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップを着用していること、および ESD クリップのプラグが接地されているジャックに差し込まれているか、またはクリップが塗装されていない金属面に接続されていることを確認します。そうでない場合は、ここで行ってください。
 3. 左右のレールについている前部および後部のクランプ **(C)** を下に回転させます。
 4. 各レールで、スプリング **(B)** をレールに固定しているテープを取り除きます。スプリングの端をレール上の円形の支柱に引っ掛けます。



P9HAM005-1

図 5. レールの取り付け

5. 最初にラックの前面から、以下の手順を実行します。
 - a) 右側レールを伸ばし、レールが上向きになるようにレール・ピン **(D)** を、ラック上のマークが付いた一番下の 2 つの取り付け穴に挿入します。
 - b) 前部クランプ **(C)** を上に回転させて、レールを所定の位置に固定します。
要確認: ご使用のラックに四角い取り付け穴がある場合は、ラック取り付けキットで提供される大きい方のレール・ピンを使用します。
 - c) 左側レールを伸ばし、レール・ピン **(D)** をラック上でマークされた一番下の 2 つの取り付け穴に挿入します。前部クランプ **(C)** を上に回転させて、レールを所定の位置に固定します。

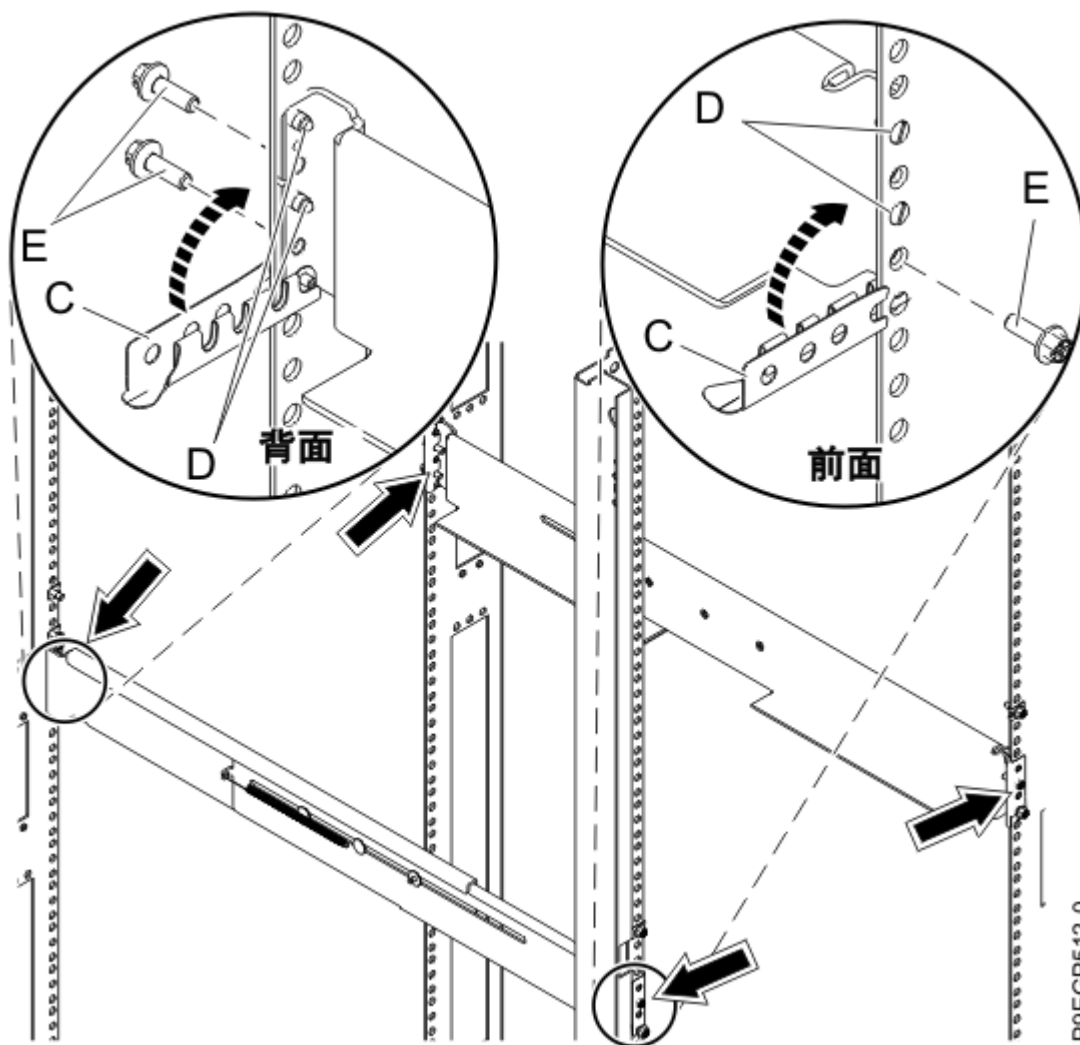


図 6. レールの取り付け

6. ラックの背面に移動して、以下の手順を実行します。
 - a) 右側レールを伸ばし、レール・ピン (D) を、ラック上のマークが付いた一番下の 2 つの取り付け穴に挿入します。後部クランプ (C) を上に回転させて、レールを所定の位置に固定します。
 - b) 左側レールを伸ばし、レール・ピン (D) をラック上でマークされた一番下の 2 つの取り付け穴に挿入します。後部クランプ (C) を上に回転させて、レールを所定の位置に固定します。
 - c) 2 本の M5 ねじ (E) を、それぞれのレール・ピン (D) の下に 1 本ずつ使用して、左側レールをラックの後部に固定します。
 - d) 2 本の M5 ねじ (E) を使用して、1 本は各レール・ピン (D) の下にして、右側レールをラック後部に固定します。
7. ラックの前面に移動して、以下の手順を実行します。
 - a) 1 本の M5 ねじ (E) を下側のレール・ピン (D) の下に使用して、左側レールをラック前部に固定します。
 - b) 1 本の M5 ねじ (E) を下側のレール・ピン (D) の下に使用して、右側レールをラック前部に固定します。

P9EGP512-0

ラックへの EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの取り付け

ラックへの EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの取り付けについて説明します。

始める前に

重要: ドロワーを安全に持ち上げるには 3 人が必要です。3 人に満たない人数でドロワーを持ち上げると、負傷するおそれがあります。

このタスクについて

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーをラックに取り付けるには、以下の手順を実行します。

手順

1. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップを着用していること、および ESD クリップのプラグが接地されているジャックに差し込まれているか、またはクリップが塗装されていない金属面に接続されていることを確認します。そうでない場合は、ここで行ってください。
2. 11 ページの図 7 に示すように、ドロワーの背面に配送カバー (A) を固定するのに使用されている 4 本のつまみねじ (B) を取り外します。配送カバーを取り外します。

注: 配送カバーは、カバーの上部に 2 本のつまみねじで、また、両側にそれぞれ 1 本のつまみねじで、ドロワーに固定されています。

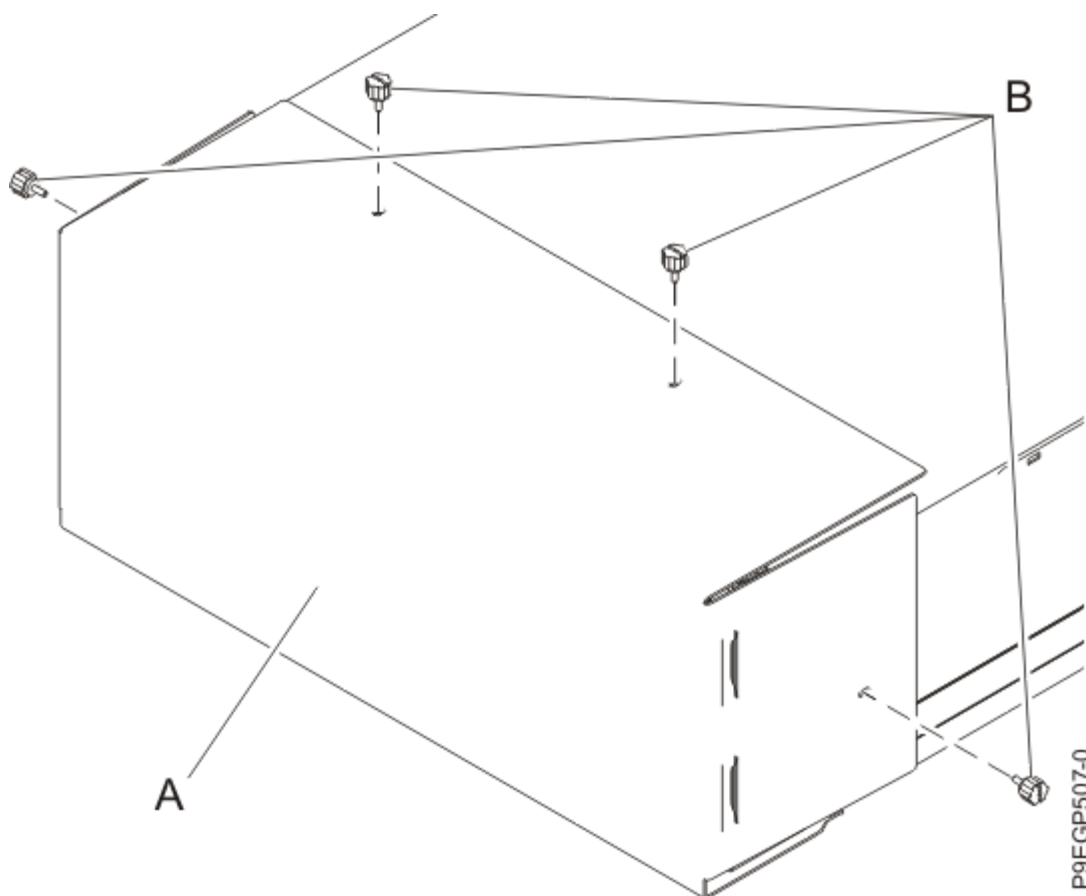


図 7. 配送カバーの取り外し

ヒント: 取り外した配送カバーおよびねじは、将来、ドロワーの配送が必要になる可能性に備えて、保管しておいてください。

3. カバーがドロワーの前面に取り付けられている場合は、以下のステップを実行して取り外します。
 - a. カバーに M5 固定ねじがある場合は、それらを取り外します。

- b. ドロワーの両側にある 2 つの青色のタッチ・ポイントを使用して、12 ページの図 8 に示すように、カバーをまっすぐ引き出してドロワーの前面から取り外します。
- c. カバーのスロットからサービス情報カードを取り外します。

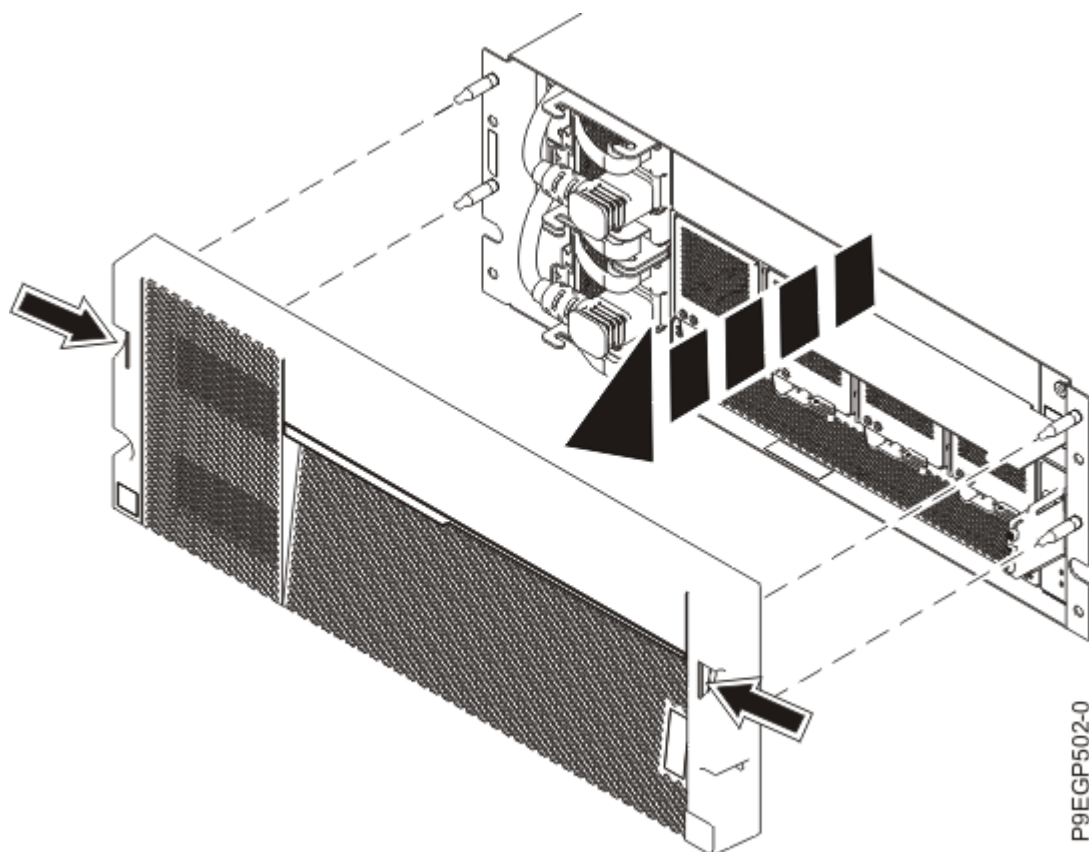


図 8. カバーおよびサービス情報カードの取り外し

4. 以下のステップを実行して、ドロワーをラックに取り付けます。

- a) 13 ページの図 9 に示すように、3 人のうち、2 人が 4 つのハンドル **(I)** をつかみ、残りの 1 人がドロワーの正面に立ってドロワーを誘導します。ドロワーを持ち上げて、レール前部に乗せます。



重要: ドロワーを安全に持ち上げるには 3 人が必要です。3 人に満たない人数でドロワーを持ち上げると、負傷するおそれがあります。

- b) ドロワーをスライドさせてスライド・レールの所定の場所に寄せ、ラックに入れます。
- c) 2 本の M5 固定ねじ **(J)** を、ドロワーを通して左右のレールのナット・クリップに取り付けます。

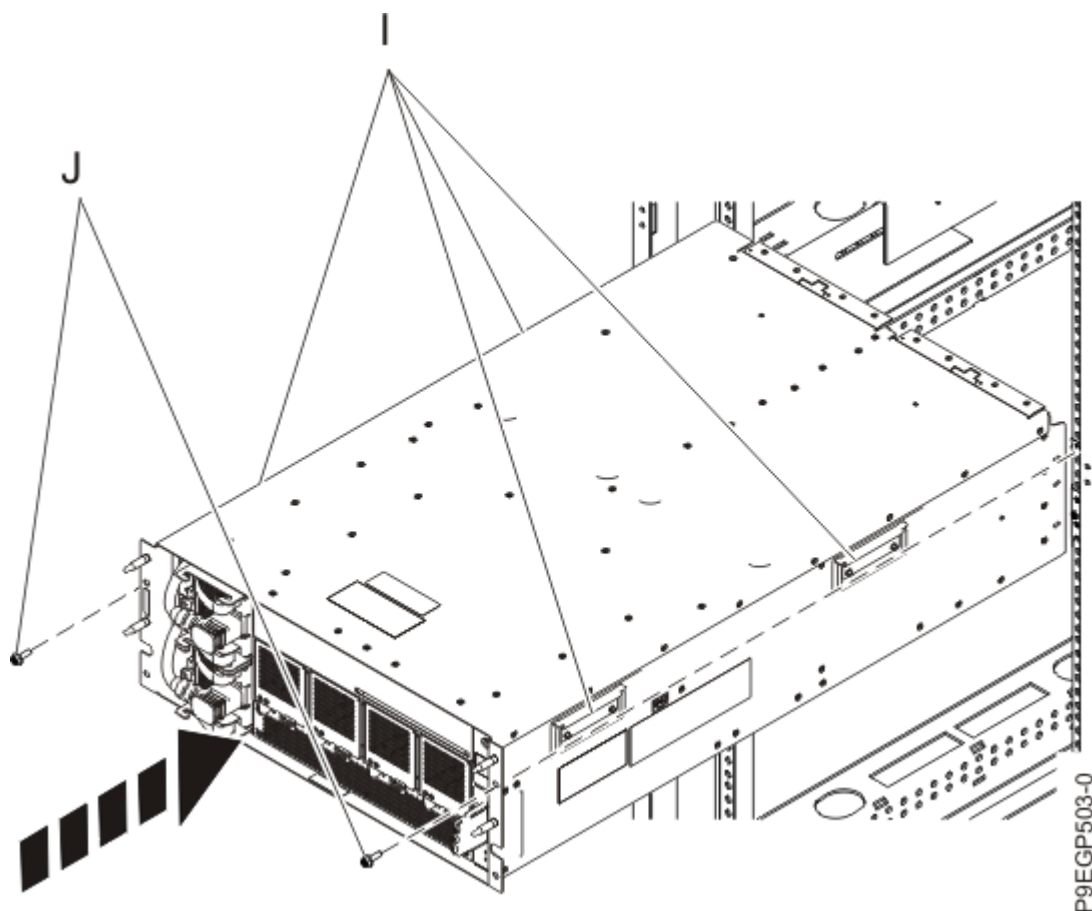


図 9. ラックへのドロワーの取り付け

5. 以下のステップを実行して、カバーをドロワーに取り付けます。
 - a) カバー **(L)** を押して所定の位置に収めたら、2 本の M5 ねじ **(M)** を使用して、左右のレールに固定します (14 ページの図 10 を参照)。
 - b) サービス情報カードをカバーのスロット **(N)** に挿入します。

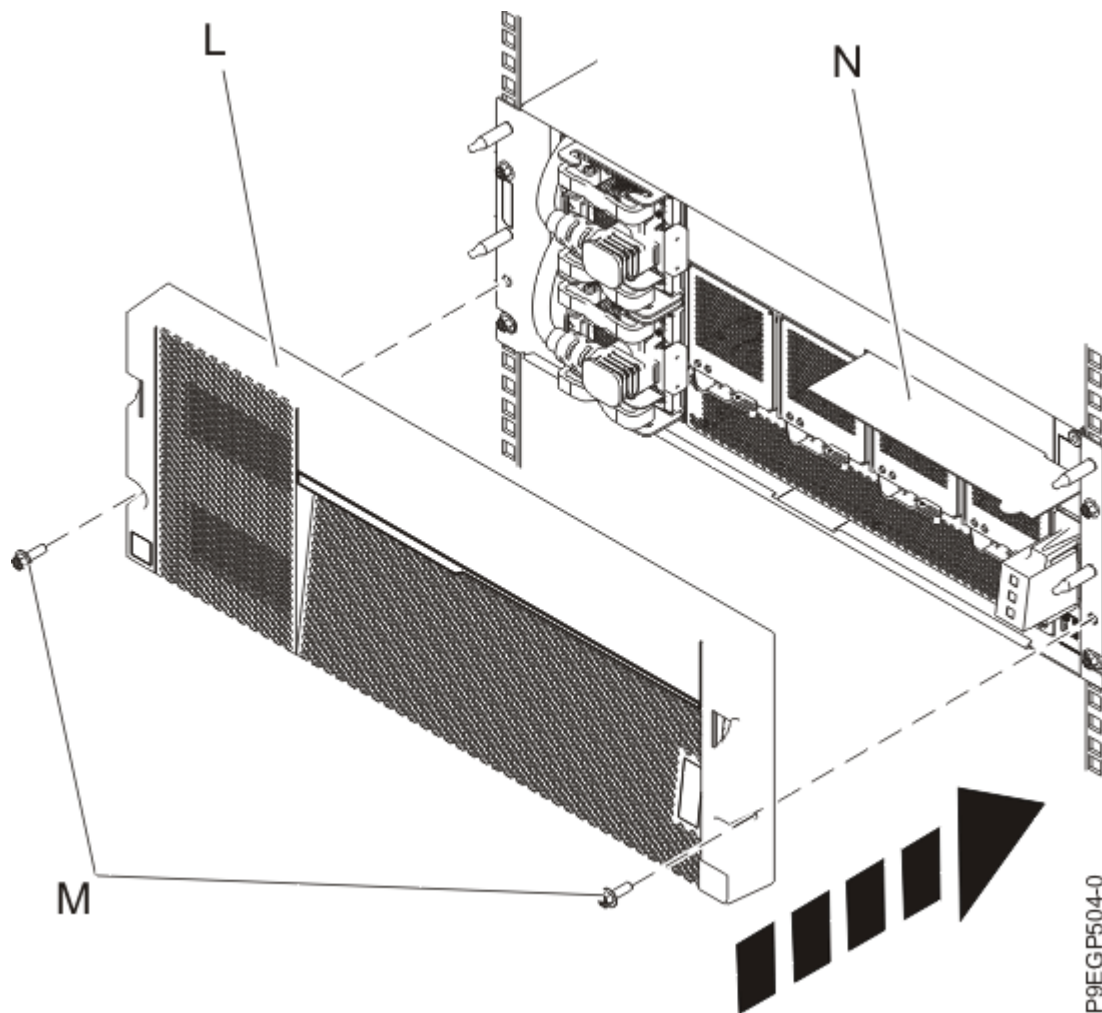


図 10. カバーおよびサービス情報カードの取り付け

6. 以下のステップを実行して、ケーブル管理ブラケットをラックに取り付けます。

- a. ラックの背面で、2 本の M5 ねじ **(A)** を、ナット・クリップが取り付けられているドロワー・レール・クランプの真上に軽く締めます。この 2 本のねじは、ケーブル管理ブラケットをラックに対して支える底部のねじになります。15 ページの図 11 を参照してください。
- b. 取り付けフランジの底部を 2 本の M5 ねじの上からケーブル管理ブラケット **(B)** の上に置き、ラックに対してブラケット・フランジを支えます。
- c. 15 ページの図 11 に示すように、ブラケットの取り付けフランジ **(B)** がラック・フランジの上部の穴の位置と合うようにブラケットを位置合わせします。
- d. ナット・クリップが取り付けられているレール・クランプの上で、2 本の上部 M5 ねじ **(C)** を完全に締めます。
- e. 底部の 2 本の M5 ねじ **(A)** を完全に締めます。

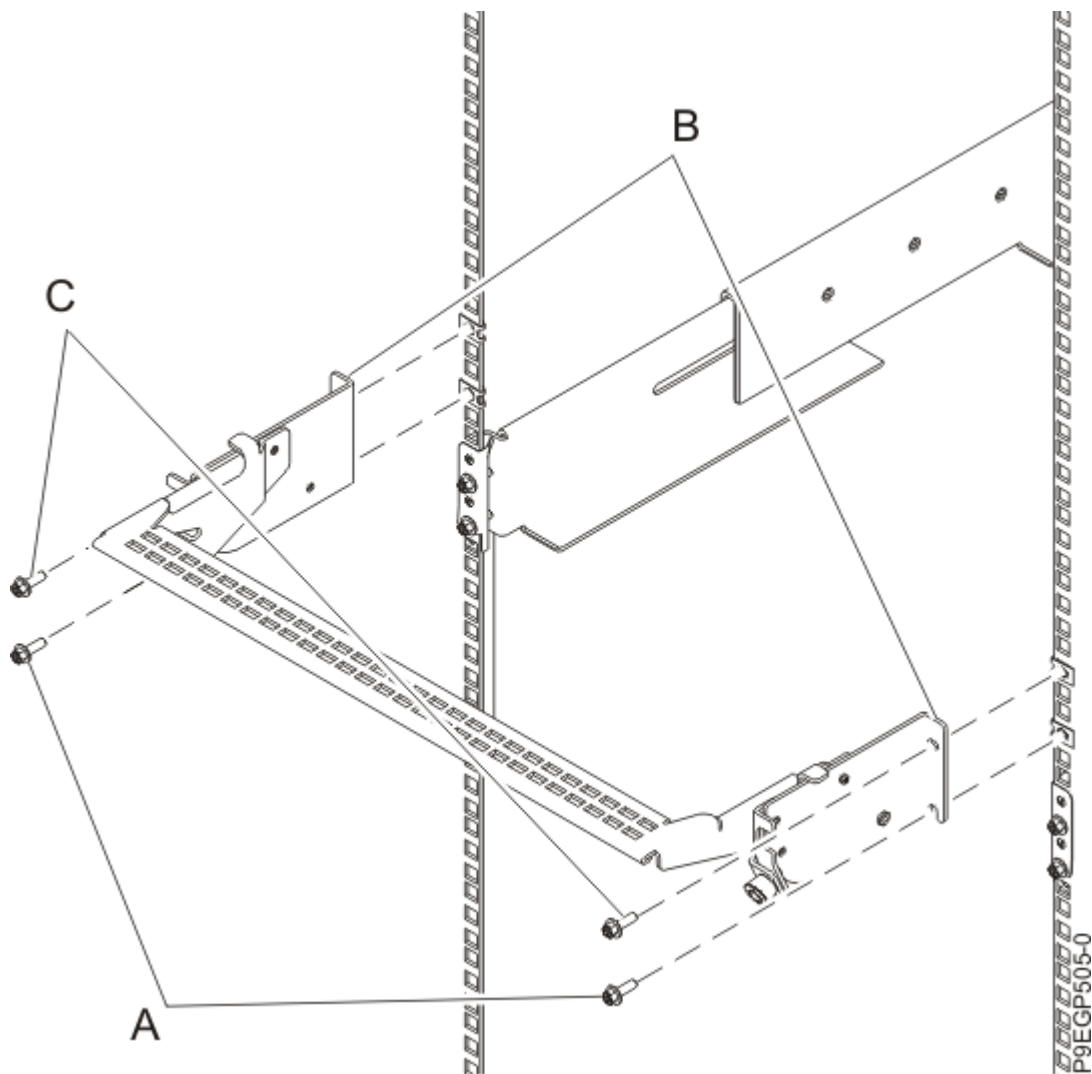


図 11. ケーブル管理ブラケットの取り付け

7. ケーブル管理ブラケットを保守位置に設置するには、以下のステップを実行します。

- a. 1/4 回転ファスナーを引き出し、ケーブル管理ブラケットを上げた位置まで持ち上げながらそれらのファスナーを回転させて解放します。
- b. 1/4 回転ファスナーを回転させ、ブラケットにかみ合わせて所定の位置にロックします。

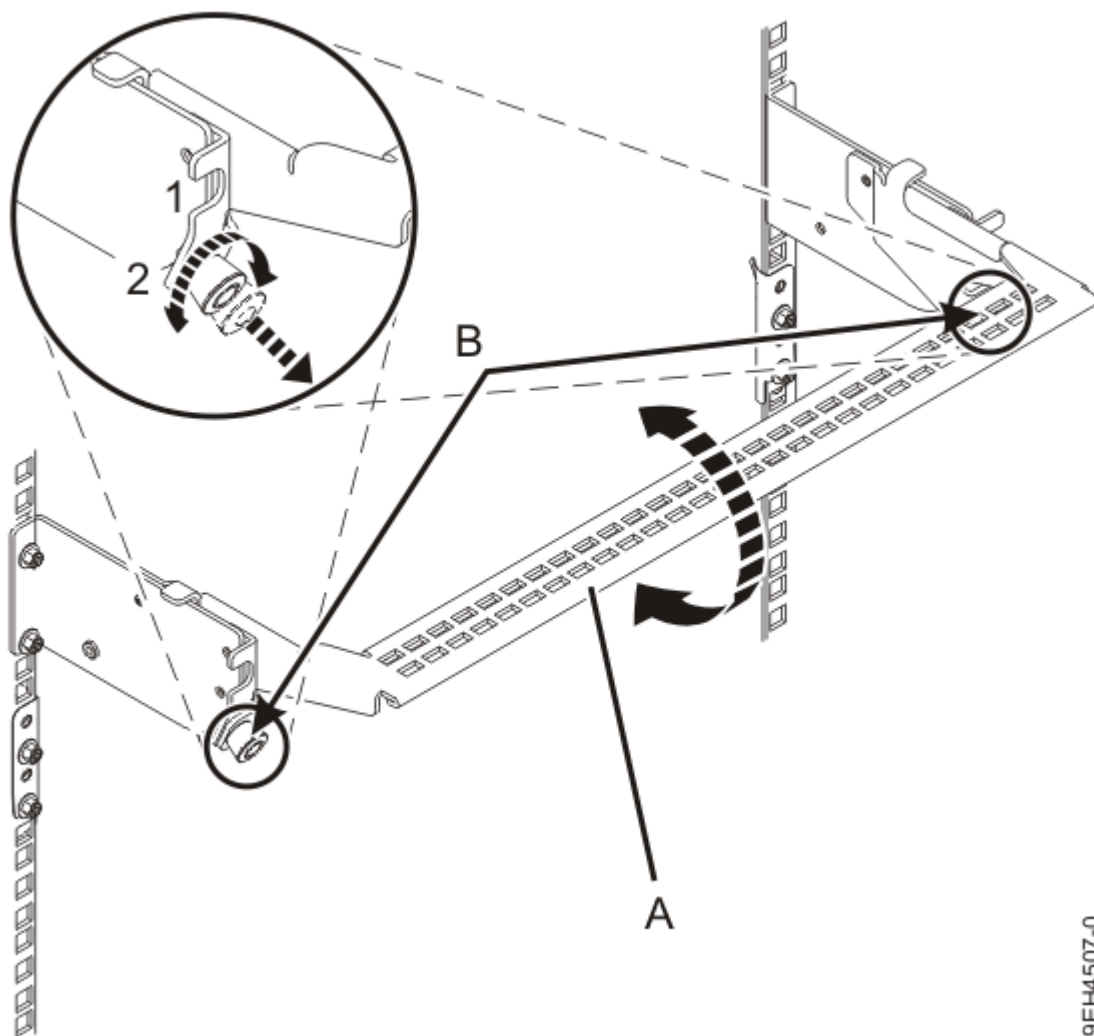
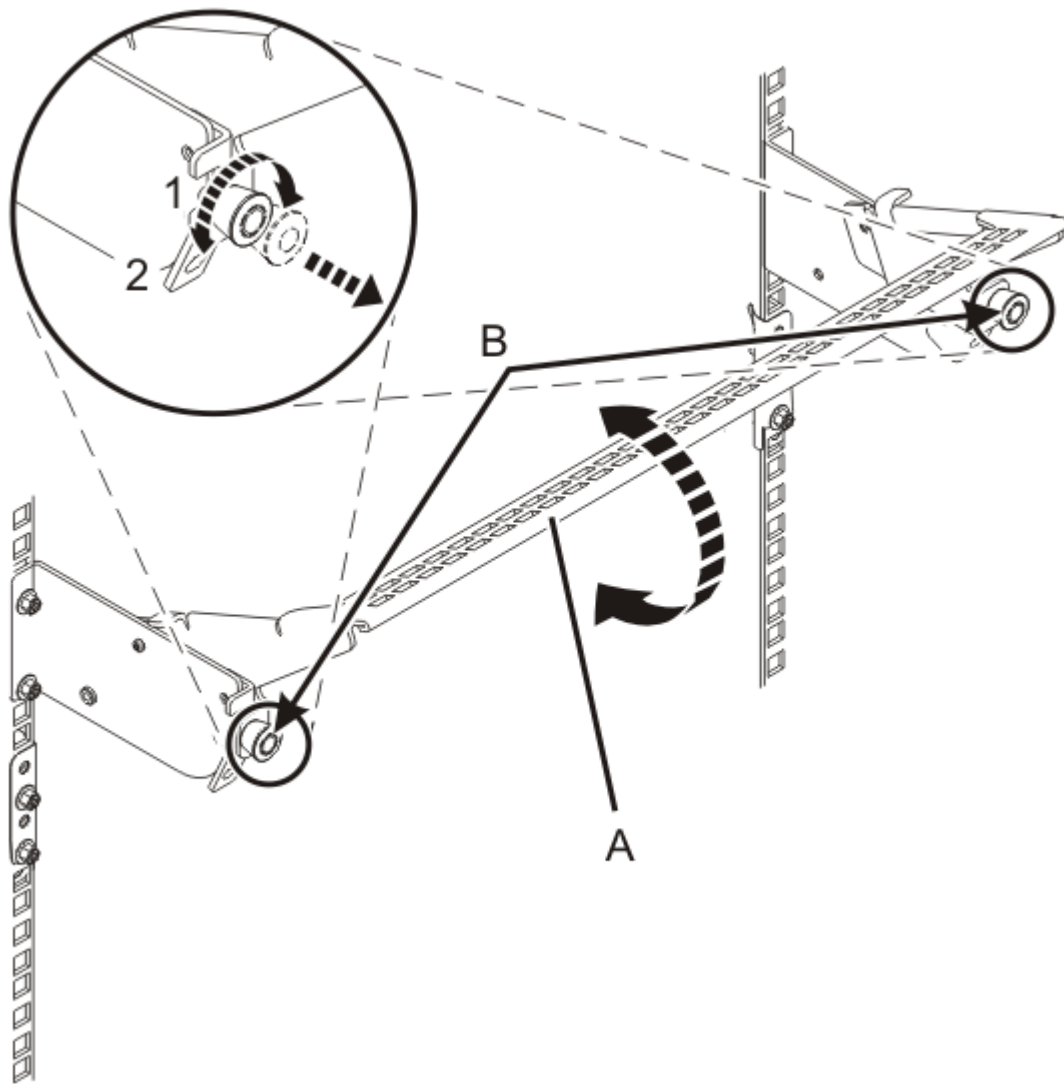


図 12. ケーブル管理ブラケットの保守位置への設置

8. ケーブル管理ブラケットを操作位置に設置するには、以下のステップを実行します。

- a. 1/4 回転ファスナー **(B)** を引き出し、ケーブル管理ブラケット **(A)** を下げた位置に動かしながら **(2)** でファスナーを回して外します。17 ページの図 13 を参照してください。
- b. 1/4 回転ファスナー **(B)** を回転させ、ブラケットにかみ合わせて所定の位置にロックします。



P9EH4508-0

図 13. 操作位置へのケーブル管理ブラケットの設置

9. 耐久型ラックを使用するか、または EMX0 PCIe3 拡張ドロワーが付いたままでラックを再配置する場合は、2 本の固定ねじ **(B)** を使用してドロワーをラックの背面に固定します (下図を参照)。

注：別のシナリオの場合、固定ねじはオプションです。

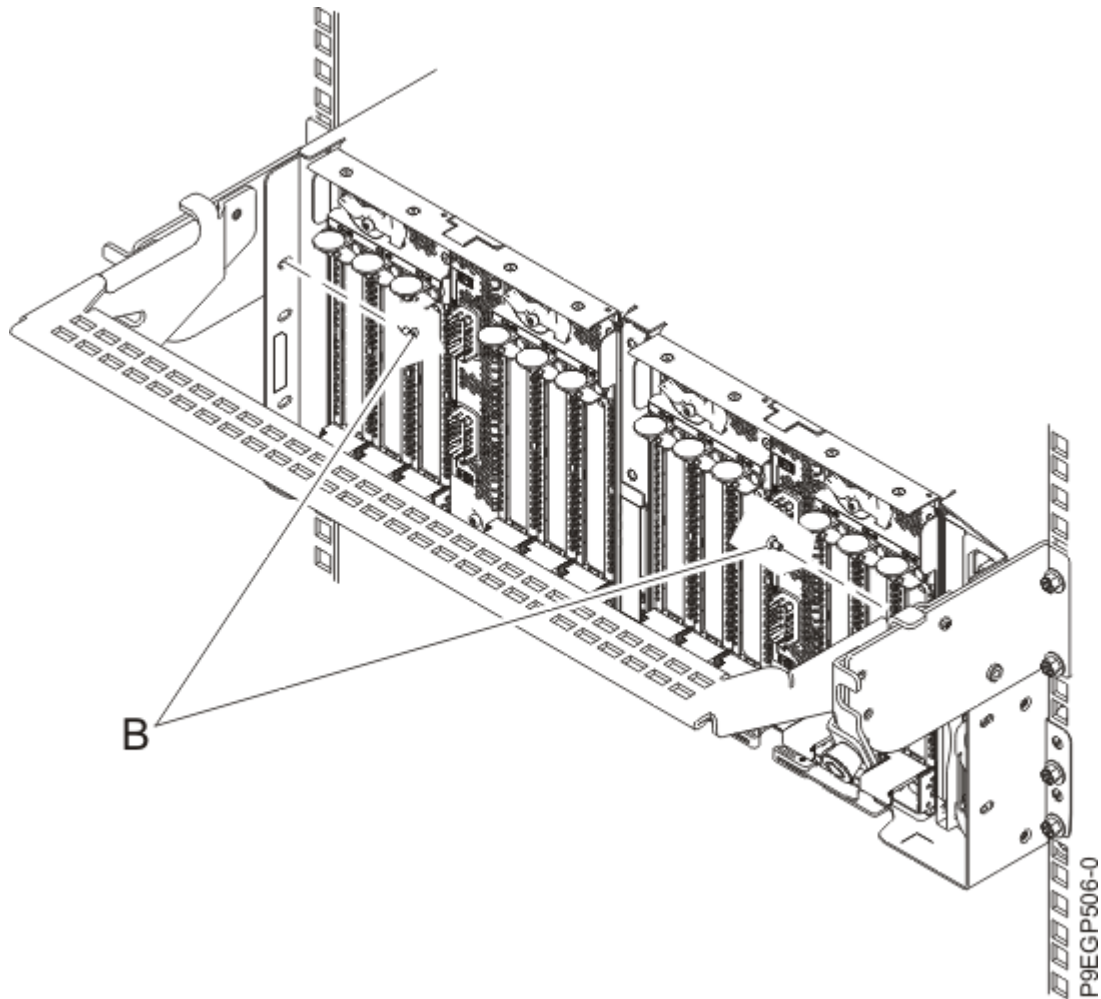


図 14. システムの背面での固定ねじの挿入

システムへの EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの接続

システムに EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを接続する方法について説明します。

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを接続するためのシステムの準備

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを接続するためにシステムを準備するには、以下の手順を実行します。

このタスクについて

要確認: システムを EMX0 PCIe3 拡張ドロワーに接続するためには、その前に、必要な数の ケーブル・アダプターが取り付けられており、必要な数の PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュールが EMX0 PCIe3 拡張ドロワーに取り付けられている必要があります。

- HMC がない場合にケーブル・アダプターを取り付ける手順については、ご使用のシステム用の部品の取り付け、取り外し、および取り換えのトピックを参照してください。
- HMC がない場合に PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュールを取り付ける手順については、[PCIe Gen3 I/O 拡張ドロワーでの PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュールの取り付け](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10egv/p10egv_emx0_kickoff_install.htm)(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10egv/p10egv_emx0_kickoff_install.htm) を参照してください。
- システムが HMC によって管理されている場合に ケーブル・アダプターまたは PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュールを取り付ける手順については、[HMC を使用した部品の取り付け](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10haj/hmcinstall.htm)(<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10haj/hmcinstall.htm>) を参照してください。

手順

1. システムを EMX0 PCIe3 拡張ドロワーに接続するために使用できる拡張ドロワー・ケーブル・ペアを判別します。
 - それぞれのケーブルの対は、同じ長さであることが必要です。ケーブルの長さは、プラグの端または各ケーブルのプルタブの近くにある長さラベルを見て確認できます。
 - ご使用のシステムおよび EMX0 PCIe3 拡張ドロワーが同じラック内にあり、システムでケーブル管理ブラケットを使用する場合は、2 メートルのケーブルを使用します。
 - ご使用のシステムと EMX0 PCIe3 拡張ドロワーが同じラック内にあり、システムでケーブル・マネジメント・アームを使用する場合は、3 メートルのケーブルを使用します。
 - ご使用のシステムと EMX0 PCIe3 拡張ドロワーが別々のラック内にある場合は、10 メートルのケーブルを使用します。
 - POWER9 プロセッサ・ベースの 9080-HEX システムがあり、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーが別のラック内にある場合は、20 メートルのケーブルを使用する必要がある場合があります。
 - POWER8 プロセッサ・ベースの 9080-MHE、9080-MME、9119-MHE、または 9119-MME システムがあり、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーが別のラック内にある場合は、20 メートルのケーブルを使用する必要がある場合があります。
2. システムに後部カバーがある場合は、取り外すか開きます。
3. 拡張ドロワー・ケーブル・ペアをパッケージから慎重に取り出します。この時点では、保護カバーを取り外さないでください。

拡張ドロワー・ケーブル・ペアの配線、接続、および活動化

拡張ドロワー・ケーブル・ペアを配線、接続、および活動化するには、以下の手順を実行します。

このタスクについて

注：この手順のステップでは、拡張ドロワー・ケーブルの配線は行いますが、指示があるまではホスト・システムや EMX0 PCIe3 拡張ドロワーには接続しないでください。

重要：拡張ドロワー・ケーブルのコネクターが損傷するのを避けるために、ホスト・システムや EMX0 PCIe3 拡張ドロワーにケーブルを差し込む必要が生じる直前まで、保護カバーを取り外さないでください。

手順

1. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップを着用していること、および ESD クリップのプラグが接地されているジャックに差し込まれているか、またはクリップが塗装されていない金属面に接続されていることを確認します。そうでない場合は、ここで行ってください。
2. 次のいずれかを選択します。
 - POWER9 プロセッサ・ベースの 9080-M9S システム、あるいは POWER8 プロセッサ・ベースの 9080-MHE、9080-MME、9119-MHE、または 9119-MME システムで作業している場合は、ケーブルにラベルを付ける必要があります。ステップ [19 ページの『3』](#)に進みます。
 - POWER9 プロセッサ・ベースの 9080-M9S システム、あるいは POWER8 プロセッサ・ベースの 9080-MHE、9080-MME、9119-MHE、または 9119-MME システムで作業していない場合は、ステップ [21 ページの『10』](#)に進みます。
3. 後の手順で必要になる、以下の項目が揃っていることを確認します。
 - 拡張ドロワー・ケーブルの対
 - ホスト・システム・ラベル・シート
 - EMX0 PCIe3 拡張ドロワーのラベル・シート
 - ラベル付けのダイアグラム
4. ホスト・システム位置ラベルを拡張ドロワー・ケーブルに取り付けます。

これらの手順を実行するときは、以下の図を参考にしてください。

- a) EMX0 PCIe3 拡張ドロワーに取り付けるホスト・システム **(A)** を見つけます。
- b) ホスト・システム・シリアル番号ラベル・シート **(B)** を見つけます。
- c) ホスト・システム・シリアル番号 **(C)** をホスト・システム・ラベル・シートに示されているシリアル番号と突き合わせます。
- d) 最初の拡張ドロワー・ケーブル・ペアを接続するホスト・システム上の ケーブル・アダプターの位置を判別します。
- e) ホスト・システム上の ケーブル・アダプターの位置に対応する、ホスト・システム・ラベル・シート **(B)** 上のラベルを見つめます。
- f) 拡張ドロワー・ケーブルの 1 つを、ポート T1 に取り付ける上部ケーブル **(D)** として選択します。
- g) 左端の Cx-T1 ラベルをケーブルのコネクター端 **(E)** に貼り付けます。
ラベルを、位置情報が見えるように、空白の端の方を先にして巻き付けます **(F)**。
- h) もう 1 枚のラベル Cx-T1 をホスト・システム・ラベル・シート **(B)** から取り、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーに取り付けるケーブルの反対側の端に貼り付けます。ラベルは、ケーブルの端から 100 mm を超えて離して貼り付けてください **(G)**。
- i) ケーブルを、差し込む場所の近くに置いておきます。
- j) ケーブルのもう一方の端を、取り付け先の EMX0 PCIe3 拡張ドロワーまで配線します。
- k) ケーブルを、差し込む場所の近くに置いておきます。

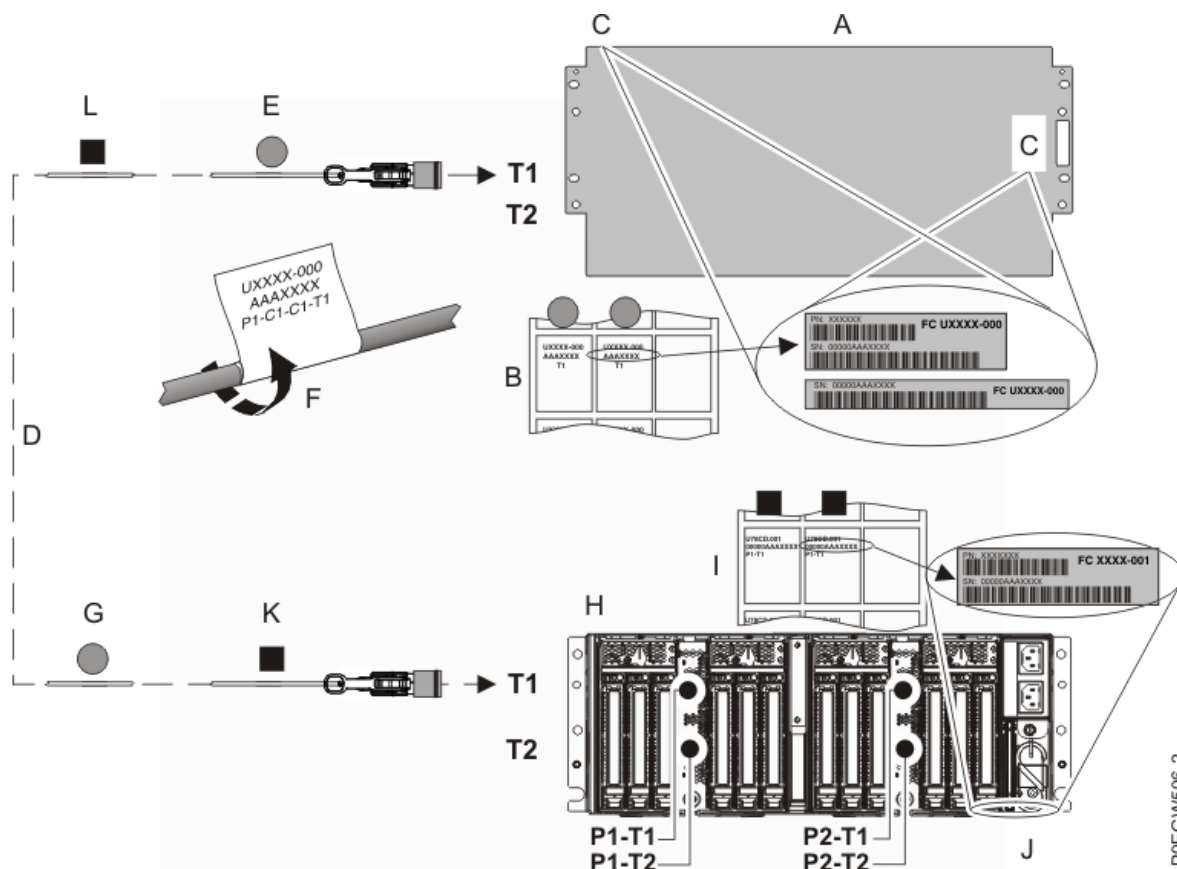


図 15. 拡張ドロワー・ケーブルのラベル付け

5. EMX0 PCIe3 拡張ドロワー位置ラベルを拡張ドロワー・ケーブルに取り付けます。

- a) ホスト・システムに接続する EMX0 PCIe3 拡張ドロワー **(H)** を見つけます。
- b) EMX0 PCIe3 拡張ドロワー・シリアル番号ラベル・シート **(I)** を見つけます。
- c) EMX0 PCIe3 拡張ドロワー・シリアル番号 **(J)** を EMX0 PCIe3 拡張ドロワー・ラベル・シートに示されているシリアル番号 **(I)** と突き合わせます。

- d) ケーブルの最初の対を取り付ける EMX0 PCIe3 拡張ドロワー上の入出力モジュールの位置を判別します。
 - e) その入出力モジュールに対応する、EMX0 PCIe3 拡張ドロワー・ラベル・シート上のラベルを見つけてます。
 - f) 左端の Px-T1 ラベルを、ケーブルのコネクター端 **(K)** に貼り付けます。
ラベルを、位置情報が見えるように、空白の端の方を先にして巻き付けます **(F)**。
 - g) 拡張ドロワー・ラベル・シートから、もう 1 枚の Px-T1 ラベルを取り、ケーブルの反対側の端に、端から 100 mm を超えて離して貼り付けます **(L)**。
 - h) ポート P1-T1 に接続される上部ケーブルを選択します。
 - i) ケーブルを、差し込む場所の近くに置いておきます。
6. ラベルを付けたケーブルを配置し、配線します。

要確認: この時点では、ケーブルを接続しないでください。

- a) ホスト・システム Cx-T1 ラベルが付いたケーブルのコネクター端 **(E)** を見つけ、それをホスト・システム上の ケーブル・アダプターの T1 ポートの近くに置いておきます。
このポートを後で使用するために記録しておきます。
 - b) ケーブルを配線して、コネクター端 **(K)** を EMX0 PCIe3 拡張ドロワー上の入出力モジュールの近くに配置します。
7. 対になっているケーブルのもう一方のケーブルに対して、ステップ [19 ページの『4』](#) からステップ [21 ページの『6』](#) を繰り返します。
8. さらに多くのケーブルの対にラベルを貼って配線する必要がある場合は、ステップ [19 ページの『4』](#) からステップ [21 ページの『7』](#) を繰り返します。
9. ステップ [21 ページの『11』](#) に進みます。
10. ケーブルにラベルを付けなかった場合は、以下のステップを実行して、拡張ドロワー・ケーブルを配置し、配線します。

要確認: この時点では、ケーブルを接続しないでください。

- a) どちらかの拡張ドロワー・ケーブルのコネクター端を、ホスト・システム上の ケーブル・アダプターの T1 ポートの近くに配置します。このポートを後で使用するために記録しておきます。
 - b) ケーブルを配線し、反対側のコネクター端を、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの入出力モジュールの近くに配置します。
 - c) 対になっているケーブルのもう一方のケーブルに対して、このステップを実行します。
11. 以下のオプションを参照して、システムの電源をオンにした状態で拡張ドロワー・ケーブルを接続して活動化できるかどうかを判別します。
- ・ POWER9 プロセッサ・ベースの 9040-MRX または 9080-M9S システム あるいは POWER8 プロセッサ・ベースの、システム・ファームウェア FW860.10 以降がインストールされた 8408-44E、またはシステム・ファームウェア FW840.xx 以降がインストールされた 9080-MHE、9080-MME、9119-MHE、9119-MME があり、システムの電源をオンにした状態でシステムとのリンクを活動化したい場合は、ステップ [21 ページの『12』](#) に進みます。
 - ・ システムの電源をオンにした状態で拡張ドロワー・ケーブルを接続して活動化するための基準を満たしていない場合、あるいはシステムの電源をオフにした状態でシステムとのリンクを活動化したい場合は、ステップ [23 ページの『14』](#) に進みます。
12. 拡張ドロワー・ケーブルを接続し、システムの電源をオンにした状態でリンクを活動化するには、以下のステップを実行します。
- a) 以下のステップを実行して、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの電源ケーブルを接続します。
 - i) 電源ケーブルを電源に接続します。
重要: 電源ケーブルを EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの電源装置に接続する前に必ず、電源ケーブルを電源に差し込みます。
 - ii) 電源ケーブルを、PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュールやモジュールに邪魔されないよう、S 字形のカラビナを通して配線します。

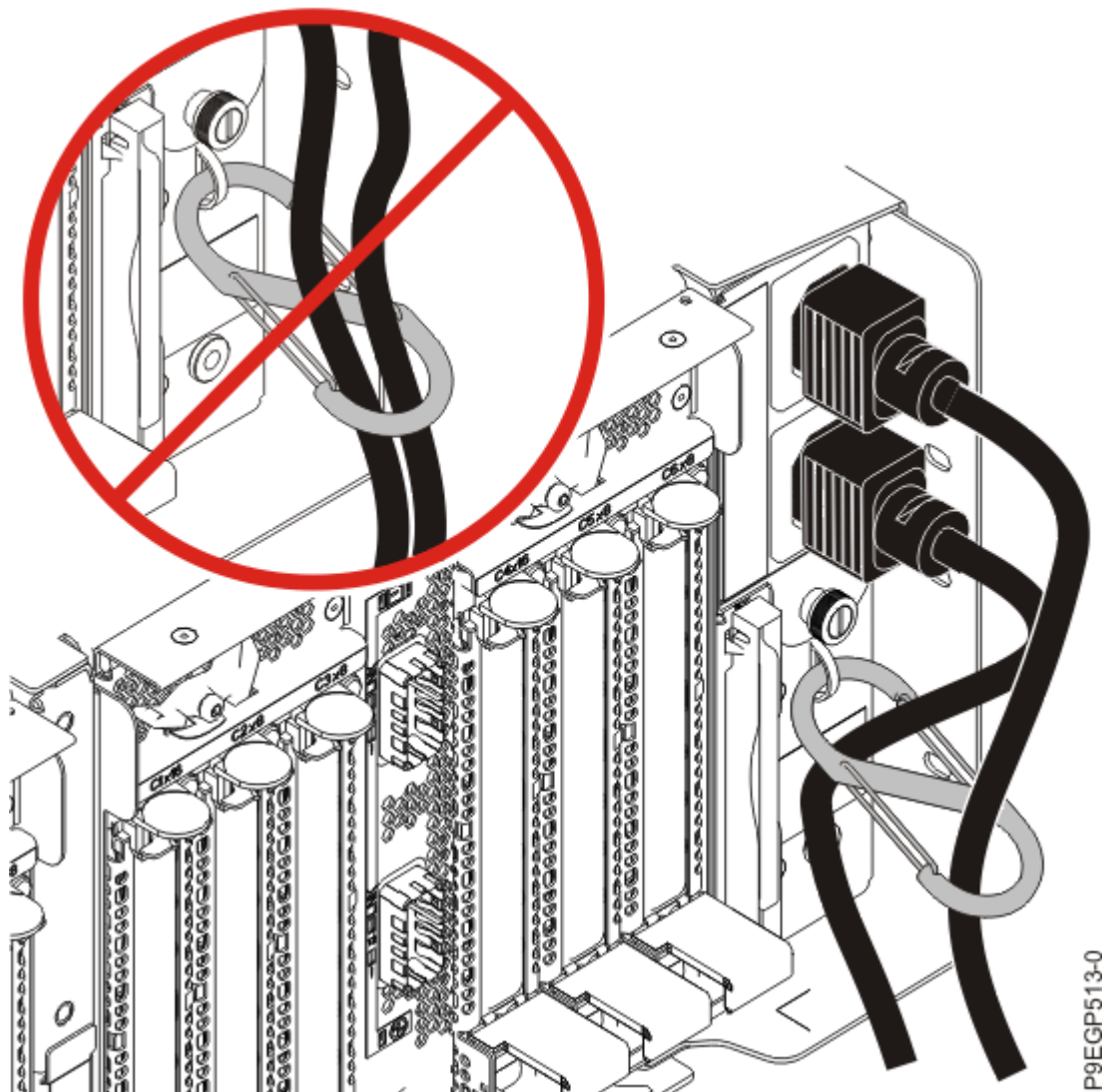


図 16. S 字形のカラビナを通した電源ケーブルの配線と電源への接続

- iii) 電源ケーブルのもう一方の端を、取り付ける EMX0 PCIe3 拡張ドロワー上の電源装置に接続します。
- b) 以下の手順を実行して、拡張ドロワー・ケーブルを接続し、システムの電源をオンにした状態でリンクを活動化します。
 - i) HMC ナビゲーション領域で、「リソース」アイコンをクリックし、「すべてのシステム」をクリックします。
 - ii) EMX0 PCIe3 拡張ドロワー を接続するシステム名をクリックします。
 - iii) 「保守容易性」 > 「FRU の追加」 > 「PCIe 接続 (PCIe Connection)」を選択します。
 - iv) 最初に接続するように事前に記録した PCIe3 ケーブル・アダプターを選択します。このケーブルは、ホスト・システム内の PCIe3 ケーブル・アダプターのコネクタ **T1** の近くにあるケーブルです。
 - v) 手順を開始して、画面の指示に従います。

注：「保守容易性」 > 「エンクロージャーの追加」を選択してここまで来た場合には、このシステム上で別のサービス・アクションがアクティブであるというメッセージが表示されます。メッセージには推奨しない旨が記載されていますが、「先に進む」をクリックしてください。

13. ステップ 23 ページの『15』に進みます。

注：HMC のパネルを使用している場合は、残りの手順が表示されます。必要に応じて、手順に慣れるためにここで手順を確認することができます。

14. システムの電源をオンにした状態で PCIe リンクを活動化するための基準を満たしていない場合、あるいはシステムの電源がオフの状態でもリンクを活動化したい場合は、以下のステップを実行します。
- a) 現在の日時を記録します。保守可能イベントを検査しているときに、システムの電源オンの際に必要になります。
 - b) システムの電源がまだオフになっていない場合は、システムの電源をオフにします。
手順については、[システムの停止 \(www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10haj/crustopsys.htm\)](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10haj/crustopsys.htm) を参照してください。
15. 拡張ドロワー・ケーブルをホスト・システム上の ケーブル・アダプターのポートおよび EMX0 PCIe3 拡張ドロワー上の PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュールに接続するには、以下の手順を実行します。
- a) 最初に接続する拡張ドロワー・ケーブルを判別します。このケーブルは、先ほど記録したホスト・システムの ケーブル・アダプター上のコネクタ **T1** の近くにあるケーブルです。
 - b) 拡張ドロワー・ケーブルのコネクタから保護カバーを取り外します。
 - i) ケーブル・ハウジング (**B**) の短辺を、一方の手の人差し指と親指で保持します。
 - ii) 次に、次の図に示すように、もう一方の手の人差し指と親指でカバーの長辺 (**A**) をつかみ、保護カバーを引いて取り外します。

注：保護カバーの閉じた端の近くに指を置いたままにしてください。

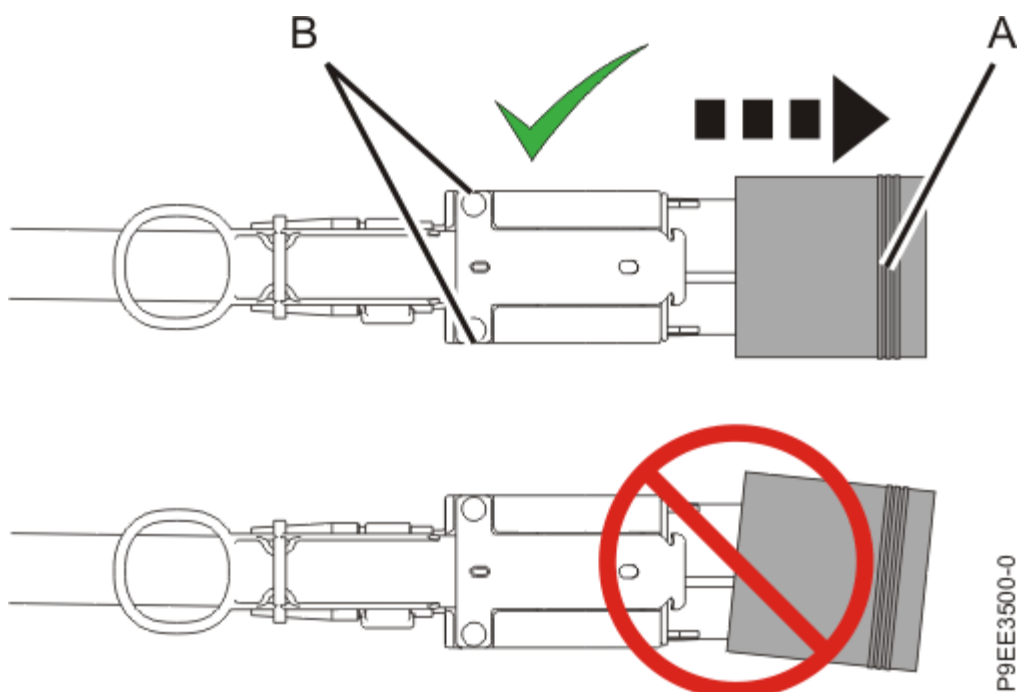


図 17. 拡張ドロワー・ケーブルのコネクタからの保護カバーの取り外し

- c) 拡張ドロワー・ケーブルをホスト・システムの ケーブル・アダプター上の **T1** コネクタに接続します。
- d) 保護カバーを取り外し、ホスト・システムの ケーブル・アダプター上のコネクタ **T2** の近くに置かれているケーブルを接続します。
- e) 保護カバーを取り外し、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュール上のコネクタ **T1** の近くに置かれている拡張ドロワー・ケーブルのもう一方の端を接続します。
- f) 保護カバーを取り外し、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュール上のコネクタ **T2** の近くに置かれている拡張ドロワー・ケーブルのもう一方の端を接続します。

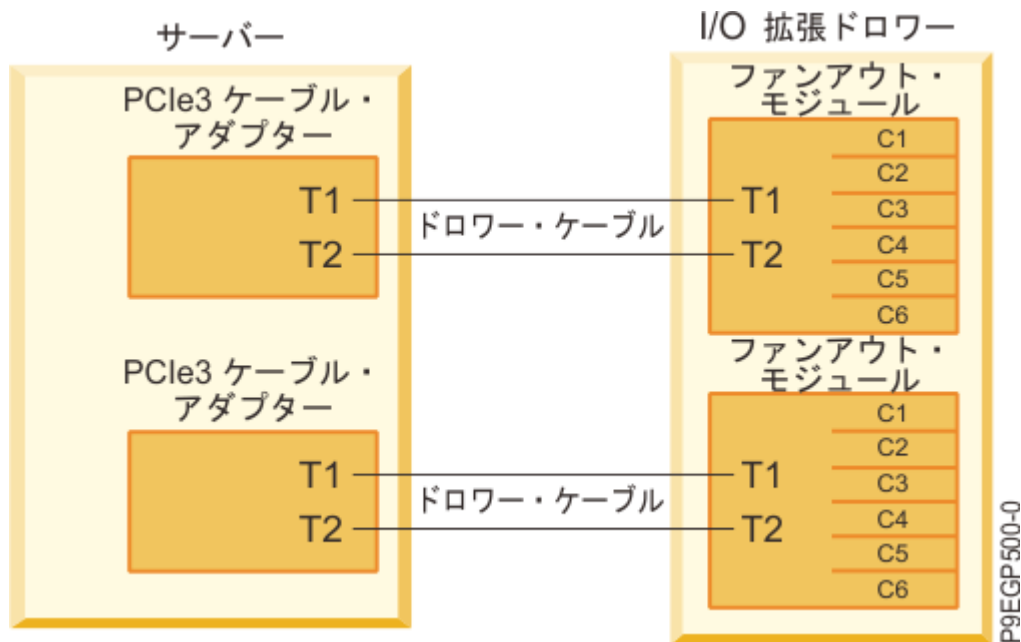


図 18. 拡張ドロワー・ケーブルの接続

16. 接続するケーブルの対がもう 1 組ある場合は、ステップ 23 ページの『15』を繰り返します。

17. 以下のオプションから選択してください。

- システム電源がオフの状態では拡張ドロワー・ケーブルを接続した場合は、ステップ 24 ページの『18』に進みます。
- システムの電源をオフにしたままである場合は、ステップ 25 ページの『19』に進みます。

18. 以下のステップを実行して、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの電源ケーブルを接続します。

a. 電源ケーブルを電源に接続します。

重要：電源ケーブルを EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの電源装置に接続する前に必ず、電源ケーブルを電源に差し込みます。

b. 電源ケーブルを、PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュールやモジュールに邪魔されないよう、S 字形のカラビナを通して配線します。

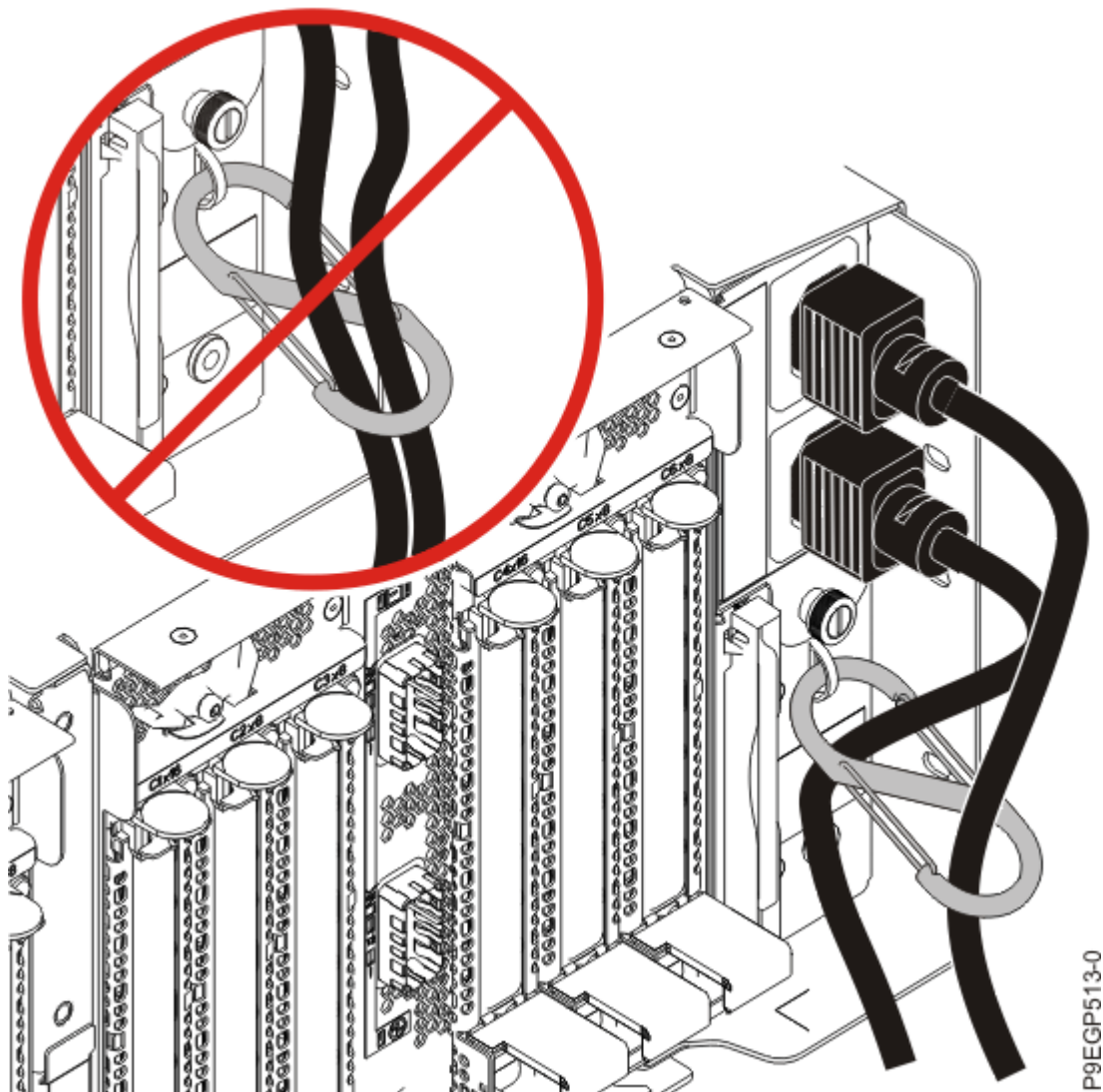




図 19. S 字形のカラビナを通した電源ケーブルの配線と電源への接続

- c. 電源ケーブルのもう一方の端を、取り付ける EMX0 PCIe3 拡張ドロワー上の電源装置に接続します。
19. 必要に応じて、PCIe アダプター用のケーブルと拡張ドロワー用のケーブルをケーブル管理ブラケットまたはケーブル・マネジメント・アームの中に配線し、面ファスナー・ストリップを使用してケーブルを正しく取り付けます。
- 注：
- ・ ケーブル管理ブラケットがある場合は、それが可能な最も高い位置にあり、ケーブルが一番下の位置まで十分な余裕を持って通ることを確認します。
 - ・ ケーブル・マネジメント・アームがある場合は、十分なスペースを確保できるように、ケーブルを配線する際にはシステムを保守位置に置くことをお勧めします。
20. 以下のオプションから選択してください。
 - ・ システム電源がオフの状態では拡張ドロワー・ケーブルを接続した場合は、ステップ 25 ページの『21』に進みます。
 - ・ システムの電源をオフにしたままである場合は、ステップ 27 ページの『24』に進みます。
 21. システムの電源がオフの状態では拡張ドロワー・ケーブルを接続した場合は、システムの電源をオンにしてファームウェア・スタンバイ状態にし、サービス可能イベントを確認する必要があります。次に、システムをオンにして稼働状態または実行状態にし、PCIe 接続を活動化する必要があります。以下のオプションから選択してください。

- ・ システムが HMC によって管理されている場合は、ステップ 26 ページの『22』に進みます。
- ・ システムが HMC によって管理されていない場合は、Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、ステップ x に進みます。

22. HMC を使用している場合は、以下の手順を実行します。

- ナビゲーション領域で、「リソース」アイコン  をクリックし、「すべてのシステム」を選択します。
- コンテンツ・ペインで、システムの名前を選択して、そのシステムに対するアクションを表示します。
- システムの電源をオンにしてファームウェア・スタンバイ状態にできるようにするには、以下の手順を実行します。
 - ナビゲーション領域で、「属性」 > 「その他の属性 (Other properties)」を選択します。
 - 「電源オン・パラメーター」タブを選択します。
 - この手順を進めた後で設定を復元できるように、「パーティション開始ポリシー (Partition start policy)」フィールドの現在の設定を記録します。
 - 「パーティション開始ポリシー (Partition start policy)」フィールドを「ユーザー開始 (User-Initiated)」に設定します。「了解」をクリックします。
- ナビゲーション領域で、「システム・アクション」 > 「操作」 > 「電源オン」を選択して、「了解」をクリックします。
- コンテンツ領域で、「状況 (Status)」列の値が「待機 (Standby)」に変更されるまで、操作しているシステムを監視します。
- 「区画開始ポリシー」フィールドを元の値にリセットするには、以下の手順を実行します。
 - ナビゲーション領域で、「属性」 > 「その他の属性 (Other properties)」を選択します。
 - 「電源オン・パラメーター」タブを選択します。
 - 「パーティション開始ポリシー」フィールドを、以前に記録した値に設定します。
- HMC を使用して、現在停止している論理区画を始動するには、以下のステップを実行します。

- ナビゲーション領域で、リソース・アイコン  をクリックしてから、「すべてのシステム」をクリックします。
- 活動化する論理区画があるシステムの名前をクリックします。
- 活動化する論理区画名を選択します。
- ナビゲーション領域で、「アクション」 > 「活動化」をクリックします。
- 「完了」をクリックします。
- ステップ 27 ページの『24』に進みます。

23. ASMI を使用している場合は、以下の手順を実行します。

- 管理者または認定サービス・プロバイダーの権限レベルを使用して、ASMI にアクセスします。
- ASMI ナビゲーション領域で、「電源/再始動制御」を展開します。
- 「システムの電源オン/オフ (Power On/Off System)」をクリックします。
- この手順を進めた後で設定を復元できるように、「サーバー・ファームウェア始動ポリシー (Server firmware start policy)」フィールドの現在の設定を記録します。
- 「サーバー・ファームウェア始動ポリシー (Server firmware start policy)」フィールドを「待機 (ユーザー開始) (Standby (User-Initiated))」に設定します。
- 「設定を保管して電源オン (Save settings and power on)」をクリックします。

- g) 「現在のシステム・ファームウェアの状態 (Current system firmware state)」フィールドの値が「スタンバイ」に変更されるまで、「システムの電源オン/オフ」を再度クリックして、ディスプレイ上の情報を定期的に最新表示します。
- h) 「サーバー・ファームウェア始動ポリシー (Server firmware start policy)」フィールドを元の値にリセットするには、次の手順で行います。
 - i) ASMI ナビゲーション領域で、「電源/再始動制御」を展開します。
 - ii) 「システムの電源オン/オフ (Power On/Off System)」をクリックします。
- i) HMC を使用していない場合は、以下のいずれかのオプションを選択して、システムの電源をオンにして実行状態にします。
 - 1 つ以上の論理区画の電源をオンにします。手順については、システムまたは論理区画の始動 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10haj/crustart.htm>) を参照してください。

注:

- システムがスタンバイ状態のときに区画を始動した場合、システムはスタンバイ状態から稼働中状態または実行状態に変更されます。
- このオプションは、HMC がある場合にのみ選択可能です。
- システムの電源をオフにしてから、再度電源をオンにします。手順については、システムまたは論理区画の停止 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10haj/crustop.htm>) および システムまたは論理区画の始動 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10haj/crustart.htm>) を参照してください。

24. 拡張ドロワー・ケーブルの PCIe リンクを配線、接続、および活動化するステップが完了しました。

システムへの EMX0 PCIe3 拡張ドロワーの接続後に操作を行うためのシステムの準備

操作を行うためにシステムを準備するには、以下の手順を実行します。

手順

1. システムに背面ドアがある場合は、それを閉じるか再取り付けします。
2. システムまたは論理区画が EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを認識したことを確認します。
システムまたは論理区画がディスク・ドライブ・エンクロージャーを認識していることを確認するには、取り付け済み部品の検査 (www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10haj/pxhaj_hsmverify.htm) を参照してください。
3. システムに論理区画がある場合は、この時点で、追加された拡張ドロワーの入出力スロットを論理区画に割り当てることができます。
手順については、物理入出力装置およびスロットの動的管理 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10hat/p10hat_dlpriopp6.htm) を参照してください。
4. これで、EMX0 PCIe3 拡張ドロワーを取り付ける手順は完了しました。
別の手順からこの手順に進んだ場合は、その手順に戻ってください。

コネクタ位置

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーのコネクタ位置および接続できるホスト・システムについて説明します。

EMX0 PCIe3 拡張ドロワー のコネクタ位置

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーのコネクタ位置について説明します。

EMX0 PCIe3 拡張ドロワーは、サーバー上のケーブル・アダプター から EMX0 PCIe3 拡張ドロワー 上の PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュール まで、ホスト・システムに接続します。

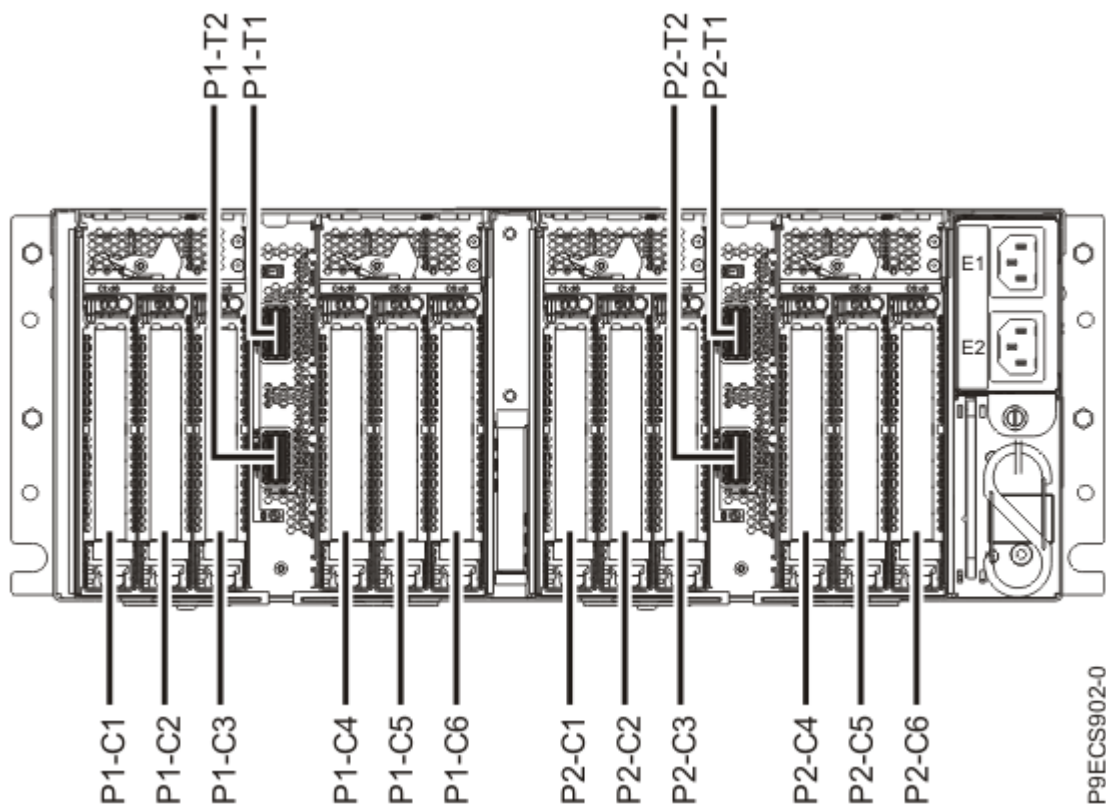


図 20. 左右の PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュール および上部 (T1) および下部 (T2) の拡張ドロワー・ケーブル・コネクタを示す EMX0 PCIe3 拡張ドロワー

EMX0 PCIe3 拡張ドロワー の位置について詳しくは、『EMX0 PCIe3 拡張ドロワー の位置』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10ecs/p10ecs_emx0_loccodes.htm) を参照してください。

サーバーの位置について詳しくは、『部品の位置とロケーション・コード』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10ecs/p10ecs_locations.htm) を参照してください。

Power10 サーバーのコネクタ位置

Power10 サーバーのコネクタ位置を説明します。

9105-22A、9105-22B、および 9786-22H システムのコネクタ位置

9105-22A、9105-22B、および 9786-22H システムのコネクタ位置について説明します。

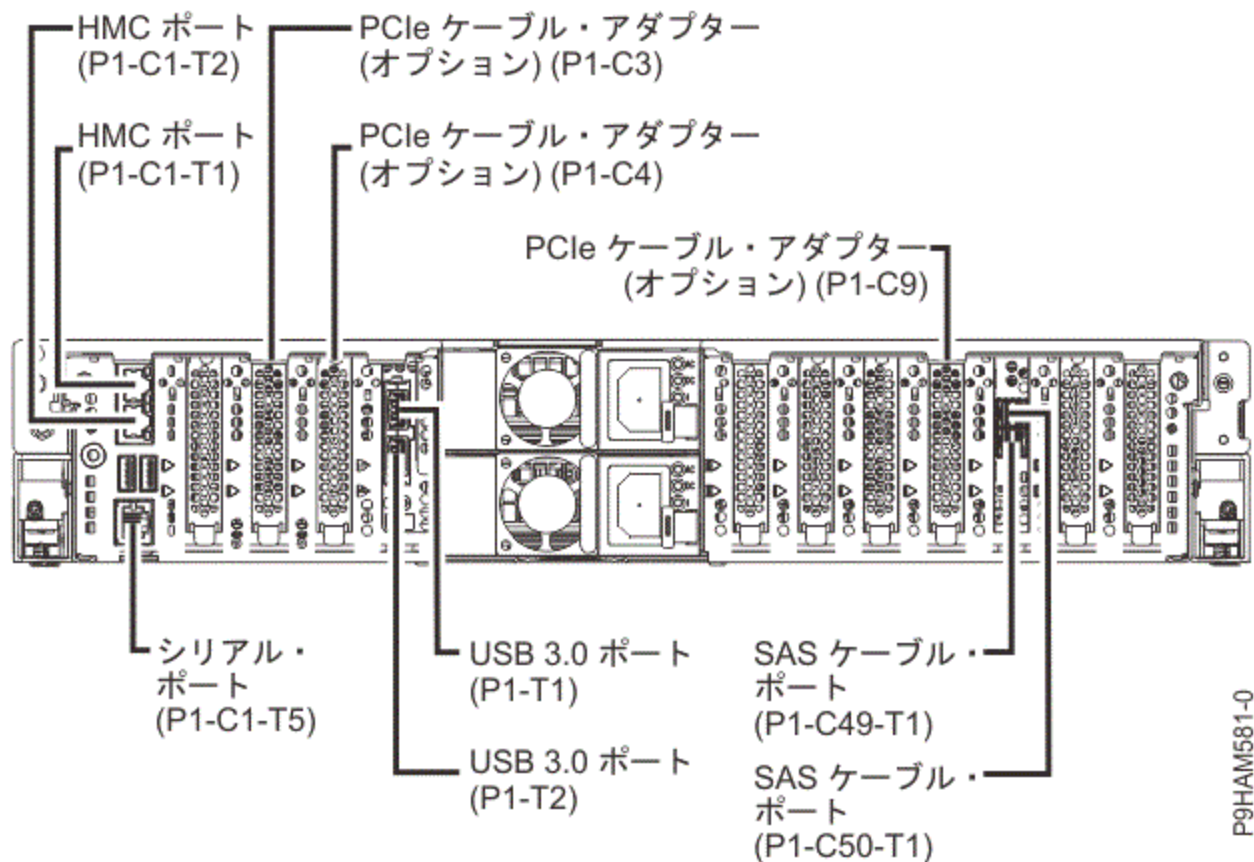
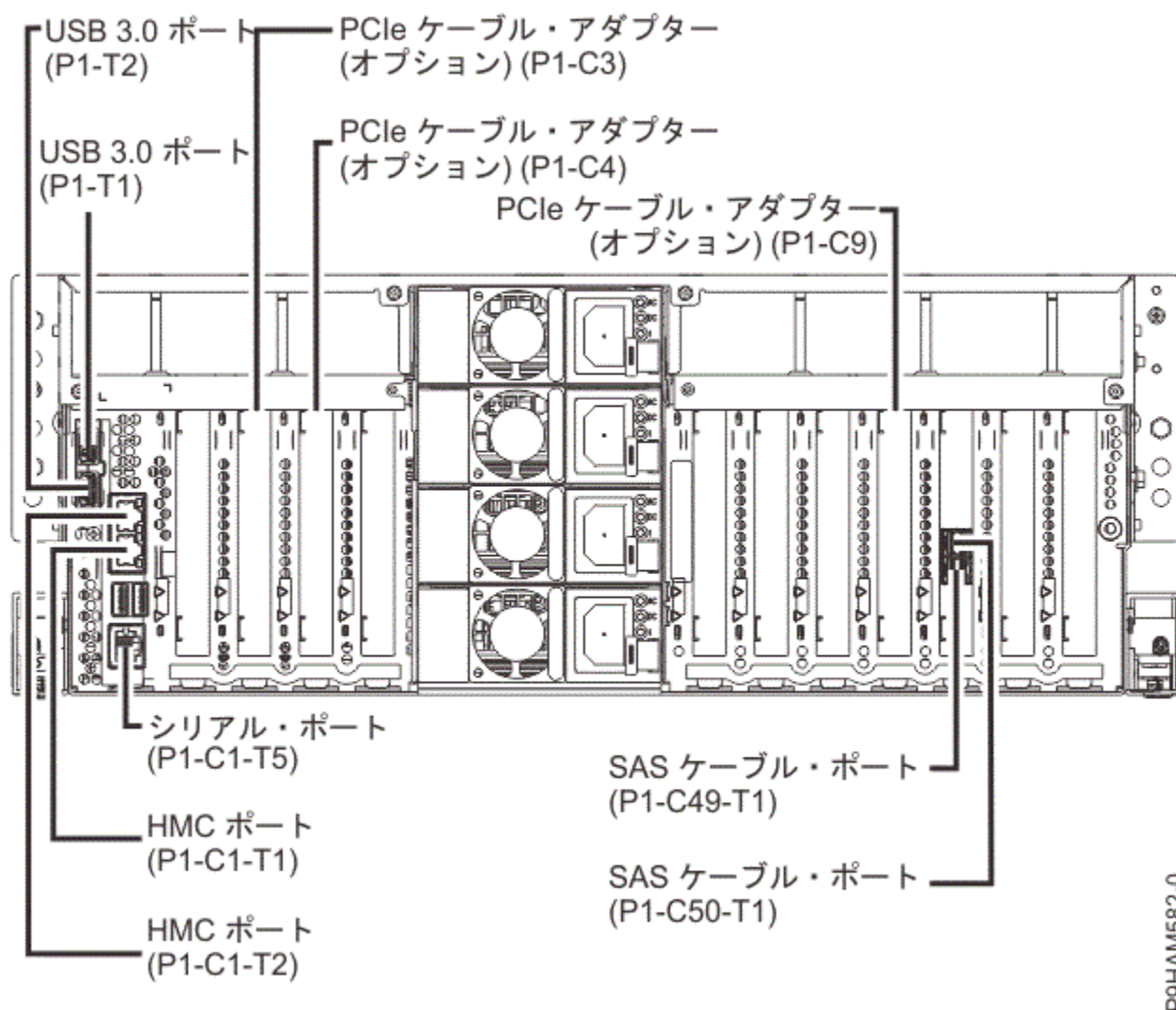


図 21. 9105-22A、9105-22B、および 9786-22H システムのコネクタ位置

9105-41B、9105-42A、9105-42B、および 9786-42H システムのコネクター位置

9105-41B、9105-42A、9105-42B、および 9786-42H システムのコネクター位置について説明します。



P9HAM582-0

図 22. 9105-41B、9105-42A、9105-42B、および 9786-42H システムのコネクター位置

9040-MRX および 9781-50H システムのコネクター位置

9040-MRX および 9781-50H システムのコネクター位置について説明します。

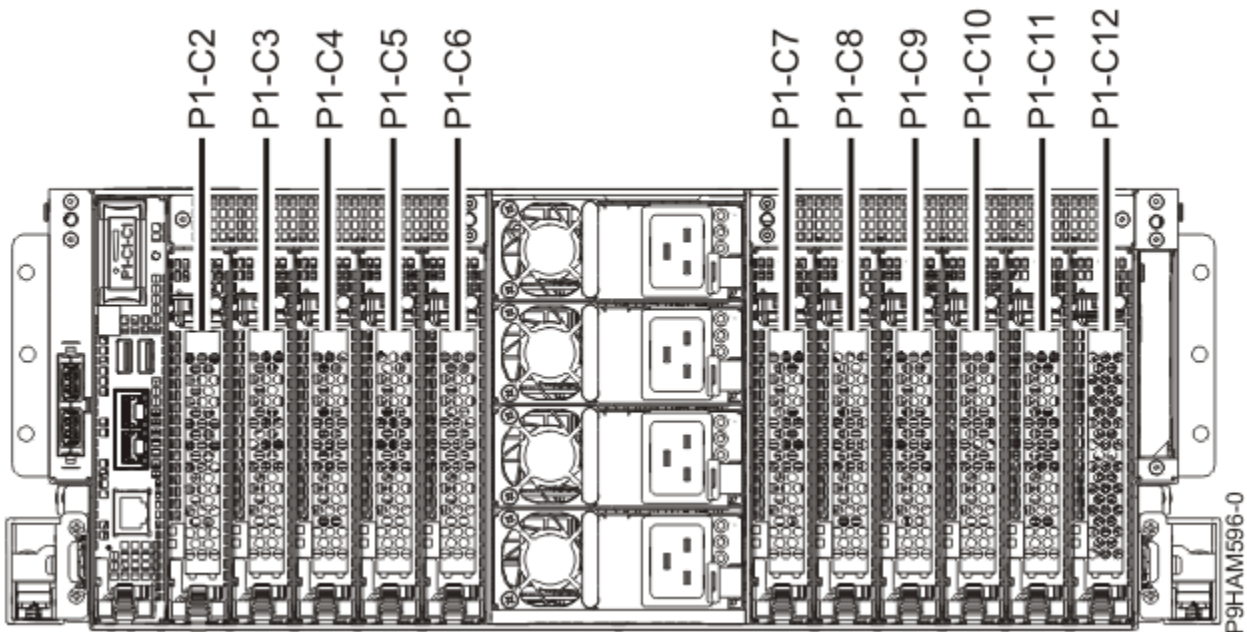


図 23. 9040-MRX または 9781-50H システムの背面図

32 ページの表 1 は、内部 SAS ディスク・ドライブ・ベイを制御するために 9040-MRX または 9781-50H システムに SAS RAID コントローラーを取り付ける際に必要なスロットを示しています。

表 1. 9040-MRX または 9781-50H システムの SAS RAID コントローラー・スロット	
SAS RAID コントローラー	スロット
PCIe3 SAS RAID クワッド・ポート 6 Gb x8、ロー・プロファイル対応アダプター (FC EJ0K; CCIN 57B4)	P1-C12
PCIe3 SAS RAID クワッド・ポート 6 Gb x8、ロー・プロファイル対応アダプター (2 個の FC EJ0K; 2 個の CCIN 57B4)	P1-C9 および P1-C12
注: 内蔵 SAS ディスク・ドライブ・ベイの制御には、C9 スロットと C12 スロットが使用されます。これらのスロットには、5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーまたは ESLS ストレージ・エンクロージャーを接続する場合の使用可能性に制限があります。	

FC EJ0K について詳しくは、[PCIe3 RAID SAS クワッド・ポート 6 Gb アダプター \(FC EJ0K; CCIN 57B4\)](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10hcd/fcej0k.htm) (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p10hcd/fcej0k.htm>) を参照してください。

33 ページの表 2 は、9040-MRX または 9781-50H システムで FC EJ0K アダプターを使用する場合のスロットの優先順位を示しています。

表 2. FC EJ0K のスロット優先順位

フィーチャー・コード	説明	2 プロセッサの場合のスロット優先順位	3 プロセッサの場合のスロット優先順位	4 プロセッサの場合のスロット優先順位	サポートされるアダプターの最大数
EJ0K	PCIe3 SAS RAID クワッド・ポート 6 Gb x8、ロー・プロファイル対応アダプター (FC EJ0K; CCIN 57B4)	12, 9, 11, 8, 10, 7	12, 9, 11, 8, 5, 10, 7, 4	12, 9, 11, 8, 5, 3, 10, 7, 4, 2	6/8/10

注: 内蔵ディスク・ドライブ・ベイの制御には、C9 スロットと C12 スロットが使用されます。これらのスロットには、5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーまたは ESLS ストレージ・エンクロージャーを接続する場合の使用可能性に制限があります。

33 ページの表 3 は、9040-MRX または 9781-50H システムでの ケーブル・アダプターのスロットおよび優先順位を示しています。EMX0 PCIe Gen3 I/O 拡張ドロー内での PCIe3 6 スロット・ファンアウト・モジュールにシステムを接続する場合は、ケーブル・アダプターが使用されます。

表 3. PCIe3 ケーブル・アダプターのスロットおよび優先順位

フィーチャー・コード	説明	2 プロセッサの場合のスロット優先順位	3 プロセッサの場合のスロット優先順位	4 プロセッサの場合のスロット優先順位	サポートされるアダプターの最大数
EJ08	PCIe/光学式 CXP コンバーター・アダプター (FC EJ08; CCIN 2CE2) (アダプターの部品番号: 041T9901)	11, 8 10, 7	11, 8, 5, 10, 7, 4	11, 8, 5, 3, 10, 7, 4, 2	4/6/8

9080-HEX システムのコネクター位置

9080-HEX システムのコネクター位置について説明します。

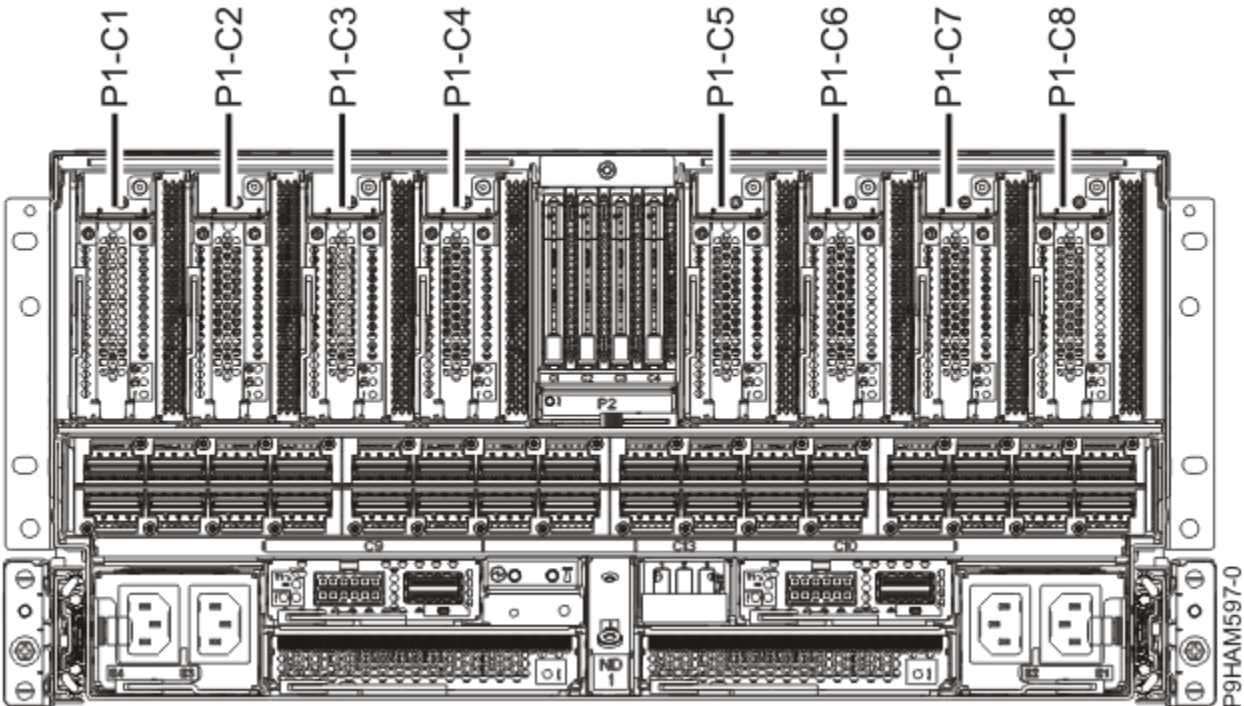


図 24. 9080-HEX システムの背面図

34 ページの表 4 は、9080-HEX システムへの SAS ハード・ディスク・ドライブ (HDD) およびソリッド・ステート・ドライブ (SSD) の接続をサポートする FC EJ0M アダプターおよび FC EJ14 アダプターのスロット優先順位を示しています。

表 4. FC EJ0M アダプターおよび FC EJ14 アダプターのスロット優先順位			
フィーチャー・コード	説明	スロット優先順位	ノード最大
EJ0M	PCIe3 SAS RAID クワッド・ポート 6 Gb LP アダプター (FC EJ0M および FC EL3B; CCIN 57B4) (アダプターの部品番号: 000MH910)	2, 4, 6, 3, 5, 7, 1, 8	8
EJ14	PCIe3 12 GB キャッシュ RAID PLUS SAS アダプター・クワッド・ポート 6 Gb x8 (FC EJ14; CCIN 57B1) (アダプターの部品番号: 01DH742)	1, 3, 5, 7, 2, 4, 6, 8	8

35 ページの表 5 は、9080-HEX システムでの PCIe ケーブル・アダプターのスロットおよび優先順位を示しています。

表 5. PCIe3 ケーブル・アダプターのスロットおよび優先順位			
フィーチャー・コード	説明	スロット優先順位	ノード最大
EJ07	PCIe3 拡張ドロー用 PCIe3 ケーブル・アダプ ター (FC EJ07; CCIN 6B52) (アダプターの部 品番号: 00TK704)	1, 7, 3, 5, 2, 8, 4, 6	8

特記事項

本書は米国が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任は適用されないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述は、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはなりません。

IBM は、示されている特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

IBM のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険性をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に IBM の Web サイトをチェックする必要があります。

通信規制の注記

This product may not be certified in your country for connection by any means whatsoever to interfaces of public telecommunications networks. Further certification may be required by law prior to making any such connection. Contact an IBM representative or reseller for any questions.

本製品は、電気通信事業者の通信回線との責任分界点への、直接的な接続を想定した認定取得作業を行っていません。そのような接続を行うには、電気通信事業者による事前検査等が必要となる場合があります。ご不明な点については、IBM 担当員または販売店にお問い合わせください。

IBM Power サーバーのアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術コンテンツを快適に使用できるようにサポートします。

概説

IBM Power サーバーには、次の主なアクセシビリティ機能が組み込まれています。

- キーボードのみによる操作
- スクリーン・リーダーを使用する操作

IBM Power サーバーでは、[ICT Accessibility 508 Standards and 255 Guidelines \(https://www.access-board.gov/ict/\)](https://www.access-board.gov/ict/) および [Web Content Accessibility Guidelines \(WCAG\) 2.0 \(www.w3.org/TR/WCAG20/\)](http://www.w3.org/TR/WCAG20/) に準拠するように、最新の W3C 標準、[WAI-ARIA 1.0 \(www.w3.org/TR/wai-aria/\)](http://www.w3.org/TR/wai-aria/) が使用されています。アクセシビリティ機能を利用するためには、最新リリースのスクリーン・リーダーに加えて、IBM Power サーバーでサポートされている最新の Web ブラウザーを使用してください。

IBM 資料に用意されている IBM Power サーバーのオンライン製品資料は、アクセシビリティに対応しています。アクセシビリティに対する IBM の取り組みについて詳しくは、[IBM Accessibility \(https://www.ibm.com/able/\)](https://www.ibm.com/able/) を参照してください。

キーボード・ナビゲーション

この製品では、標準ナビゲーション・キーが使用されています。

インターフェース情報

IBM Power サーバーの Web ユーザー・インターフェースには、1 秒当たり 2 回から 55 回明滅するコンテンツはありません。

IBM Power サーバーの Web ユーザー・インターフェースは、コンテンツの適切なレンダリング、および使用可能なエクスペリエンスの提供を、カスケード・スタイル・シートに依存しています。アプリケーションは、視覚障害者が、ハイコントラスト・モードを含め、システム表示形式の設定を使用するために同等の仕組みを提供します。フォント・サイズの制御は、デバイスまたは Web ブラウザーの設定を使用して行うことができます。

IBM Power サーバーの Web ユーザー・インターフェースには、アプリケーションの機能領域に迅速にナビゲートできる WAI-ARIA ナビゲーション・ランドマークが組み込まれています。

ベンダー・ソフトウェア

IBM Power サーバーには、IBM の使用許諾契約書の適用外である特定のベンダー・ソフトウェアが組み込まれています。IBM では、それら製品のアクセシビリティ機能については、何ら保証責任を負いません。ベンダーの製品に関するアクセシビリティ情報については、該当のベンダーにお問い合わせください。

関連したアクセシビリティ情報

標準の IBM ヘルプ・デスクおよびサポートの各 Web サイトに加え、IBM では、聴覚障害を持つユーザーまたは聴覚機能が低下しているユーザーが販売サービスやサポート・サービスにアクセスするのに使用できる TTY 電話サービスを用意しています。

TTY サービス
800-IBM-3383 (800-426-3383)
(北アメリカ内)

アクセシビリティに対する IBM の取り組みについて詳しくは、[IBM アクセシビリティ \(www.ibm.com/able\)](http://www.ibm.com/able) を参照してください。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie をはじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用について詳しくは、IBM のプライバシー・ポリシー (<https://www.ibm.com/jp-ja/privacy>)、および IBM のオンラインでのプライバシー・ステートメント (<https://www.ibm.com/jp-ja/privacy/details>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』のセクション (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、Web 上で「[Copyright and trademark information](#)」をご覧ください。

電波障害規制特記事項

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

クラス A 表示

以下のクラス A 表示は、POWER10 プロセッサを搭載した IBM サーバーおよびそのフィーチャーに適用されます。ただし、フィーチャー情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されている場合は除きます。

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

以下のクラス A 表示はサーバーに適用されます。

Canada Notice

CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A)

European Community and Morocco Notice

This product is in conformity with the protection requirements of Directive 2014/30/EU of the European Parliament and of the Council on the harmonization of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

This product may cause interference if used in residential areas. Such use must be avoided unless the user takes special measures to reduce electromagnetic emissions to prevent interference to the reception of radio and television broadcasts.

Warning: This equipment is compliant with Class A of CISPR 32. In a residential environment this equipment may cause radio interference.

Germany Notice

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse A EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2014/30/EU zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022 / EN 55032 Klasse A ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

EN 55032 Klasse A Geräte müssen mit folgendem Warnhinweis versehen werden:

"Warnung: Dieses ist eine Einrichtung der Klasse A. Diese Einrichtung kann im Wohnbereich Funk-Störungen verursachen; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen zu ergreifen und dafür aufzukommen."

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse A

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:
International Business Machines Corp.
New Orchard Road

Armonk, New York 10504
Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:
IBM Deutschland GmbH
Technical Relations Europe, Abteilung M456
IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tel: +49 (0) 800 225 5426
email: HalloIBM@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55022 / EN 55032 Klasse A.

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) の特記事項

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値 : IBM Documentation の
各製品の仕様ページ参照

この表示は、20 A/相以下の製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A/相 (単相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・回路分類 : 6 (単相、PFC回路付)
- ・換算係数 : 0

この表示は、20 A/相 (3 相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・回路分類 : 5 (3 相、PFC回路付)
- ・換算係数 : 0

一般財団法人 VCCI 協会 (VCCI) の特記事項

この装置は、クラスA 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

Korea Notice

이 기기는 업무용 환경에서 사용할 목적으로 적합성평가를 받은 기기로서 가정용 환경에서 사용하는 경우 전파간섭의 우려가 있습니다.

People's Republic of China Notice

警 告

此为 A 级产品, 在生活环境中,
该产品可能会造成无线电干扰
在这种情况下, 可能需要用户对
其干扰采取切实可行的措施

Russia Notice

ВНИМАНИЕ! Настоящее изделие относится к классу A.
В жилых помещениях оно может создавать
радиопомехи, для снижения которых необходимы
дополнительные меры

Taiwan Notice

警告使用者:

此為甲類資訊技術設備,
於居住環境中使用時, 可
能會造成射頻擾動, 在此
種情況下, 使用者會被要
求採取某些適當的對策。

IBM Taiwan Contact Information:

台灣IBM 產品服務聯絡方式:
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話: 0800-016-888

United States Federal Communications Commission (FCC) Notice

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions:

(1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Responsible Party:

International Business Machines Corporation

New Orchard Road

Armonk, NY 10504

Contact for FCC compliance information only: fccinfo@us.ibm.com

クラス B 表示

以下のクラス B 表示は、フィーチャー取り付け情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されているフィーチャーに適用されます。

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

Canada Notice

CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

European Community and Morocco Notice

This product is in conformity with the protection requirements of Directive 2014/30/EU of the European Parliament and of the Council on the harmonization of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

German Notice

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse B EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2014/30/EU zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022/ EN 55032 Klasse B ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse B

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:
International Business Machines Corp.
New Orchard Road
Armonk, New York 10504
Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:
IBM Deutschland GmbH
Technical Relations Europe, Abteilung M456
IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tel: +49 (0) 800 225 5426
email: HalloIBM@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55032 Klasse B

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) の特記事項

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値 : IBM Documentation の
各製品の仕様ページ参照

この表示は、20 A/相以下の製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A/相 (単相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・回路分類 : 6 (単相、PFC回路付)
- ・換算係数 : 0

この表示は、20 A/相 (3 相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・回路分類 : 5 (3 相、PFC回路付)
- ・換算係数 : 0

一般財団法人 VCCI 協会 (VCCI) の特記事項

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

Taiwan Notice

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

United States Federal Communications Commission (FCC) Notice

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult an IBM-authorized dealer or service representative for help.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions:

(1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Responsible Party:

International Business Machines Corporation
New Orchard Road
Armonk, New York 10504
Contact for FCC compliance information only: fccinfo@us.ibm.com

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: このご使用条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加して適用されます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

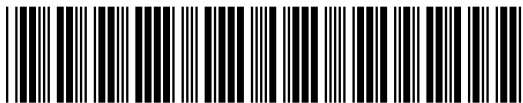
お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態 で 提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



部品番号: 03KG314

GC43-2372-09



(1P) P/N: 03KG314

